倉敷埋蔵文化財センター年報2

―1994年度―

1995年12月

倉敷埋蔵文化財センター

序

当センターは，平成５年４月に開館して以来，市内における埋蔵文化財保護の拠点施設として，発掘調査や整理，研究を行うとともに，企画展示や各種講座等を通して地域における歴史の基礎資料の集積と発信の基地としての役割をも担うべく，真剣に模索しながら進めてまいりました。

幸いにも，当センターを中心に行いました各種の講座，講演会，企画展さらにはコンサート等の普及部門につきましては，多くの市民の皆様のご参加をいただき，好評を得て意を強くいたしており，さらに努力を続けてまいる所存です。

また昨今のきびしい状況の中で，地域開発と埋蔵文化財の保護・保存との調和を図りつつ，事業を円滑に進めていくことは，埋蔵文化財センターの行う文化財保護行政の重要な施策のひとつとなっており，積極的な確認調査や分布調査の実施等を通して，早期に対策を講じていく必要性を感じております。

このたび刊行いたしました「倉敷埋蔵文化財センター年報２」は，平成６年度に実施いたしました埋蔵文化財調査の概要を記すとともに，当センターが行いました普及活動の記録も合わせて報告するものです。

本書が今後の埋蔵文化財保護行政の一助として，また生涯学習活動におけるいささかの参考となれば幸甚に存じます。

最後になりましたが，調査をはじめ講座等センターの運営にあたり，ご指導ご協力を賜りました関係の皆様に厚くお礼申し上げますとともに，今後とも市民各位のより一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成７年12月

倉敷埋蔵文化財センター
館長　三宅正廣

例　　言

1．本書は，倉敷埋蔵文化財センターが1994年度に行った埋蔵文化財保護行政の概要についてまとめたものである。

2．発掘調査は，倉敷市教育委員会倉敷埋蔵文化財センター職員福本明・鍵谷守秀・小野雅明・藤原好二・中野倫太郎・片岡弘至が担当した。

3．本書の執筆は各担当者が分担して行い，それぞれ文末に文責者を記した。全体編集は，片岡が行った。

4．出土遺物の整理は倉敷埋蔵文化財センターで行い，整理にあたっては，内田智美・木曽敏江・藤田朱美・宮地かをりの協力を得た。

5．本書で使用した高度は海抜高であり，方位は磁北である。

6．調査地位置図で使用した地形図は，倉敷市発行の50,000分の1の都市計画図を縮小したものであり，その他のものは，倉敷市発行の都市計画図を複製または縮小したものである。

7．本書に関係する実測図・写真・遺物等は，すべて倉敷埋蔵文化財センターで保管している。

目　　次

序 文

例 言

Ⅰ　1994年度事業の概要 …… 1

Ⅱ　普及事業

普及事業の概要 …… 3

Ⅲ　調査事業

黒崎貝塚確認調査報告 …… 13

宝島寺東古墳確認調査報告 …… 15

広江・浜遺跡確認調査報告 …… 17

下津井城跡確認調査報告 …… 18

新熊野山遺跡確認調査報告 …… 19

上東遺跡確認調査報告 …… 20

酒津－水江遺跡確認調査報告 …… 21

池尻遺跡発掘調査概報 …… 22

Ⅳ　寄贈図書一覧 …… 25

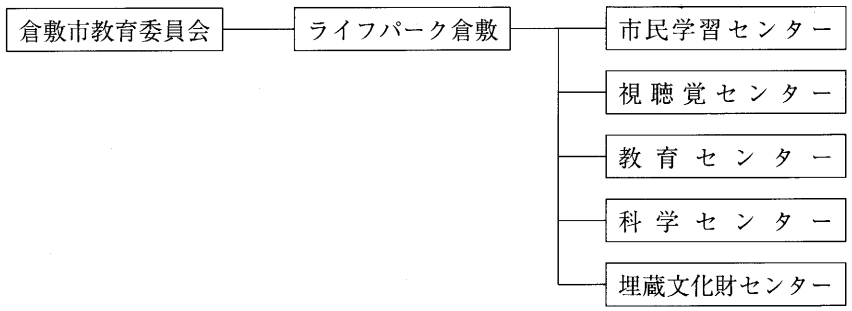
付 編

倉敷埋蔵文化財センター情報誌「ほるほる」 …… 33

Ⅰ　1994年度事業の概要

1993年４月の埋蔵文化財センターの開館以来，埋蔵文化財に係る一連の業務は，すべて埋蔵文化財センターで担当している。埋蔵文化財センターは，生涯学習施設であるライフパーク倉敷の中の一施設として，下記の体制により運営されている。

倉敷埋蔵文化財センター機構図



ライフパーク倉敷	所長	今田　昌男
埋蔵文化財センター	館長	三宅　正廣（ライフパーク倉敷参事兼務）
〃	館長補佐	武田　俊宏
〃	学芸員	福本　　明
〃	〃	鍵谷　守秀（科学センター学芸員兼務）
〃	〃	小野　雅明
〃	〃	藤原　好二（文化課学芸員兼務）
〃	〃	中野倫太郎
〃	〃	片岡　弘至
〃	嘱　託	内田　智美
〃	臨時職員	藤田　朱美
	〃	木曽　敏江
	〃	宮地かをり

（職名等は1995年３月31日現在）

平成６年度　埋蔵文化財センター運営協議会

会　長	間壁　忠彦	（学識経験者）
副会長	小野　一臣	（　〃　）
委　員	中桐　宗博	（小学校長会県副会長）
〃	坂川　博康	（中学校長会県副会長）
〃	佐々木次郎	（高等学校校長会）
〃	古谷野寿郎	（学識経験者）
〃	池田三重子	（　〃　）
〃	宮口　公子	（　〃　）

また埋蔵文化財センターでは，条例によりセンターが行う普及および啓蒙に関する事業等について協議するために「倉敷埋蔵文化財センター協議会」を設けている。1994年度は6月21日に協議会を開催するとともに，8月2日～8月3日にかけて奈良～大阪方面の先進施設の視察を行っている。

1993年度の調査業務は，発掘調査1件，確認調査8件，立会調査26件を実施している。なお1,000㎡を超える開発事業についての開発事前協議は，本年度は148件となっており，相変わらず増加傾向がみられる。このうち発掘調査を実施した池尻遺跡は，後述するように市立保育園改築工事に伴う調査であり，遺構自体にはあまり恵まれなかったものの，谷沿いの堆積土中より弥生時代中期末頃の大量の土器や石器とともに分銅形土製品なども見つかっており，今後の整理作業に期待が寄せられている。その他の確認調査とあわせて別項の調査概要を参照していただきたい。

1992年より継続して進められている文化財分布図の改訂作業に伴う分布調査は，山林の荒廃等もあってなかなか捗っていないが，本年度も玉島・児島地区を中心に実施している。また分布調査により作成された遺跡台帳および過去の調査実績等については，地図情報とともにパソコンに入力し，一括して情報管理を行う作業も並行して進めている。

普及事業については，本書第Ⅱ章に詳述されているので参照していただきたいが，センターの展示事業を中心に昨年度に続いて考古学入門講座や親子考古学教室等の講座を実施するとともに，年度後半は1994年度当初から実施した企画展「玻璃・古代吉備と世界のガラス」の準備に多くを費やしている。こうした展示・講座等を含めた本年度の利用者数については，開館日数293日に対し，入館者数20,100人であり，企画展を次年度当初に計画したこともあり，開館初年度よりやや減少している。なお，月別の利用者数の内訳は次表のとおりである。

1994年度利用者数集計表

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合　計
開館日数		25	23	26	27	26	24	25	24	22	22	23	26	293（日）
入館者数	一般	926	1,394	1,128	1,131	1,600	1,116	1,104	966	426	474	591	713	11,569（人）
	児童生徒	505	964	1,378	999	1,429	527	621	780	302	210	220	596	8,531（人）
	合計	1,431	2,358	2,506	2,130	3,029	1,643	1,725	1,746	728	684	811	1,309	20,100（人）

Ⅱ 普 及 事 業

事 業 の 概 要

1．展　示

1994年度には，展示室に常設展示品が一点追加された。

前年度開催の「磬石」コンサートの御縁で，宮脇磬子氏よりサヌカイトの石琴を御寄贈いただき，「ライフパークの集い」にあたって開催した企画「不思議楽器を鳴らしてみよう」（後述）において公開した。

また，企画終了後は，展示室に常時展示することとし，サヌカイトの石琴を中心に，陶けん（土笛）陶鼓の復元品を誰にでも手にとってもらえるような状態で展示している。

展示室からはたどたどしい童謡，歌謡曲の一節など，入館者による石琴の演奏が聞こえてくる。子供たちの楽しげな笑い声も聴くことができる。

サヌカイトの石琴

夏休み親子考古学教室「舞ぎり」つくり

2．講　座

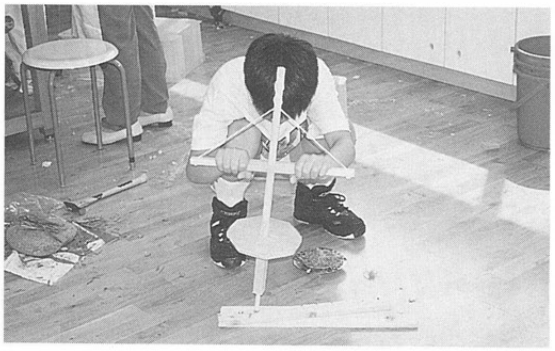
a．夏休み親子考古学教室

第１日　　７月28日（水）　13：30より
会　場　　ライフパーク倉敷　クラフト室
第２日　　７月29日（木）　11：00より
会　場　　由加山・少年自然の家

今年度も，「舞ぎり」つくりと火おこし，土器による古代料理作りを行った。

第１日，参加者は自分たちの手で「舞ぎり」を作って火をおこした。工具を使う子供たちの手つきは慣れない様子であったが，全員着火に成功した。

第２日は，野外で土器を使った料理を行った。舞ぎりで火をおこし，赤米をまぜたご飯とミソ汁を作った。あわせて，陶けんの野焼きを実演した。



夏休み親子考古学教室「舞ぎり」による火おこし

夏休み親子考古学教室　土器によるご飯たき

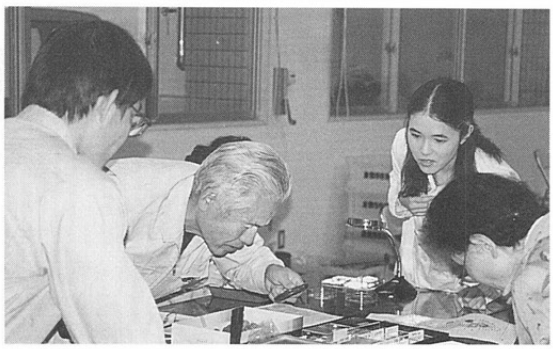
b．考古学入門講座

第１日　　11月11日（金）　13：30より
会　場　　池尻遺跡
「発掘現場へいってみよう」
第２日　　11月18日（金）　13：30より
会　場　　倉敷埋蔵文化財センター
「遺物整理の方法」
第３日　　11月25日（金）　13：30より
会　場　　倉敷埋蔵文化財センター
「遺物研究事始め・銅鐸」

考古学の技術，資料整理法，資料操作法について，市民の皆さんに学んでもらおうという趣旨で行われた。専門用語をなるべく排し，簡単な言葉で説明しようと努力した。さらに見学，実技，ゲームなどを軸とし，楽しめるものを目指した。

今年度も講師は内部講師である。当センター学芸員がすべて準備し，実施した。

考古学入門講座「発掘現場へいってみよう」



考古学入門講座「遺物整理の方法」

c．親子ふれあい隊

「弥生時代の土笛をつくろう」
第１日　　９月25日（日）　９：30より
第２日　　11月23日（日）　９：30より
会　場　　倉敷埋蔵文化財センター

ライフパーク倉敷の５施設（市民学習，視聴覚，教育，科学と当センター）の共同講座，親子ふれあい隊の１回として企画された。参加者の親子全員でひとつずつ，「陶けん（土笛）」をつくった。粘土は，焼成の必要がなく乾燥させただけで素焼き風に仕上がる市販の紙粘土をつかった。

最初はとまどっているふうの講座参加者も，形が整い，音が出る頃には，皆，真剣な顔つきになっていた。楽器のように参加者本人に直接手応えのある素材は，誰にとってもとっつきやすいものと思われる。（Ｐ７の資料参照のこと）

考古学入門講座「遺物研究事始め」

親子ふれあい隊

3．不思議楽器を鳴らしてみよう

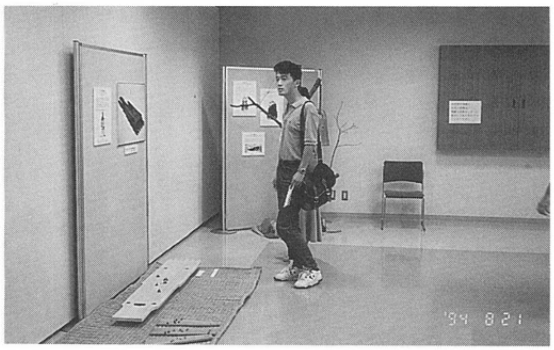
開　催　　8月21日（日）

会　場　　倉敷埋蔵文化財センター

ライフパーク倉敷の全館あげての催し物「ライフパークの集い」にあわせて，古代楽器，民族楽器，復元楽器を展示し，子供たちにさわってもらう企画を行った。（P．8～9の資料参照のこと）

前述のサヌカイトの石琴を展示の中心に，陶けん，古代琴，銅鐸などの復元品，先住オーストラリア人の民族楽器等を用意した。子供たちを中心に多くの人に楽しんでもらえた。

昨年度開催したコンサート等についてもいえることだが，視覚・聴覚にうったえ，なおかつ参加者が展示品にふれることのできる企画は，極めて人気が高い。また，参加者との対話も密になる。このような通常の展示の枠から一歩踏み出したワークショップ的な企画を今後も行い，より多くの人たちに埋蔵文化財センターの存在をアピールしていきたい。



不思議楽器を鳴らしてみよう

不思議楽器を鳴らしてみよう

4．情報誌「ほるほる」の発行

発行形態　　不定期発行

体　　裁　　B４二つ折り

ページ数不定

P．33～72の載録を参照のこと

当センターの利用促進，催し物の広報などのために情報誌を発行した。小学校中学年～中学生とその保護者を対象に想定し，親しみやすくて読みやすいものを，という方針で編集している。

読者参加が可能になるよう，アンケート，質問の受付などを行っている。

1994年度は２回しか発行できなかったが，もっと発行回数を増やしたい。

不思議楽器を鳴らしてみよう

不思議楽器を鳴らしてみよう

5．おしえて！おしえて！のコーナー

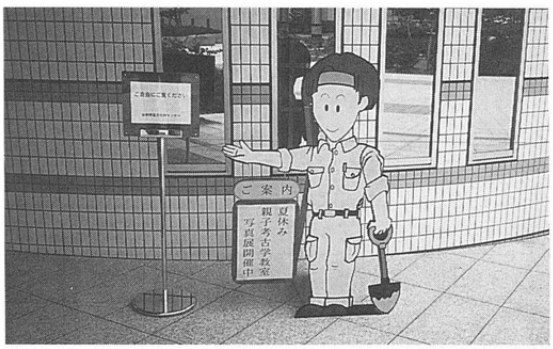
前年度より子供たちからの質問に答えるコーナーを継続して設置している。回答は掲示板および「ほるほる」誌上で行っている。

子供らしい着眼点のもの，ちょっと意外なものなどがあり，子供たちがむかしのどういったことに興味をもっているのかを知る上でよい参考になる。

ただ，大量の質問を処理しきれておらず，回答が遅れ気味になっている。今後もこのコーナーは継続して行っていく予定であるが，１年近くを経過した現在，質問の内容が固定化してきており，今後の展開を考えるべき時期が来ているようである。

夏休み親子考古学教室　受講生

夏休み親子考古学教室　スタッフ



ほるほる君

6．まとめ

前年度にひきつづき，まずは埋蔵文化財センターの存在を知ってもらうという路線での普及活動を展開した。ゆっくりとではあるが，その成果はあらわれてきていると思う。

親しみやすく，楽しい，そしてなるべく参加しやすい事業を，これからも行って行きたいと思っている。

また，前年度には，市の生涯学習基本計画にのっとって，他施設との連携をすすめた。本年度も引き続きこの方針で活動を続けた。この成果は，次年度の企画展などにあらわれてくるはずである。

弥生時代の土笛 とうけん について

1．いつごろの　どんな笛なの？

弥生時代とは、いまから２０００年ほどむかしになります。

お米つくりがはじまった時代です。

このころまで、日本の人たちは、お米をつくることを知りませんでした。お米つくりの方法は、いまから２３００年ほどむかしに、中国、朝鮮半島からきた人たちによってつたえられました。

この人たちは、そのほかに、鉄などの金属のつくりかた、はたおりなどの新しい知恵もこの国につたえました。

彼らは、中国生まれの新しいしゅるいの土笛のつくりかたも知っていました。この笛が「とうけん（陶塤）」です。

形は、たまごの形ににています。

穴が７つあけられています。ひとつは、ふく穴。あとの６つは指でおさえたりはなしたりして音をかえる穴です。

この笛は、ふくと「ぼおっ」という深みのあるよい音を出します。

2．どこでみつかっているの？

この笛は、北九州から京都にかけての日本海がわにある遺跡から発見されています。いままでに、８つの遺跡から40個ほどが発掘されています。

ざんねんなことに、岡山県や瀬戸内のほかの県ではみつかっていません。

これは、むかし岡山にすんでいた人たちには、この笛のつくりかたがつたわらなかったためだろうと考えられています。

なぜつたわらなかったのでしょうか？

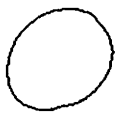
この理由はわかっていません。

みんなも、この理由を考えてみてください。

弥生時代の土笛 を つくろう

1．ねん土をまるめて、たまご形にしよう。

つくりたい大きさよりも、ちょっとおおきめにしておこう。これは、ねん土はかわくとちぢんでしまうからだ。



2．できたおだんごを糸で半分に切ろう。

なるべくきれいに切ったほうが、あとのしごとが楽だ。

3．半分に切ったら、ハリガネでなかみをえぐろう。

残すあつみは、５～８ミリぐらいにしよう。

4．ふたつをあわせよう。

あわせめには、ねん土を水でとかしたものをぬってノリのかわりにする。

5．しばらくおいて、かたくなったら穴をあけよう。

さいしょにてっぺんの大きな穴をあけたら、音を出してみよう。

6．音がでたら、指穴をあけよう。

この穴は、あけるたびに音を出しながら、ひとつづつあけていこう。

7．むかしのひとは、できた笛をかわかして、たき火で焼いたんだけど、このねん土は焼かなくてもだいじょうぶ。

きれいにととのえたら完成だ。

埋蔵文化財センターって何するところ？

昔からたくさんの人が住んでいた倉敷には、いままでに知られているだけでも、１０００以上の遺跡があります。

埋蔵文化財センターは、これらの遺跡をまもり未来にのこすための仕事をしています。たとえば建物や道の工事をする場所に遺跡があるかどうかをしらべ、遺跡があるときには工事の場所をかえてもらったり、どうしても工事場所をかえられないときには、その遺跡を発掘してくわしくしらべて記録する仕事があります。

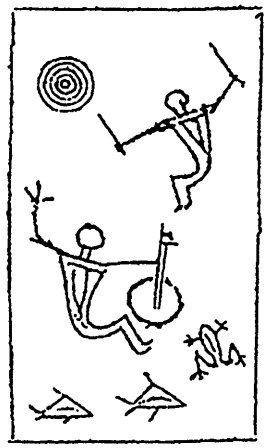
発掘で出てきた土器などは、きれいにあらって整理しないといけません。どろだらけのままでは研究できないからです。

また、発掘でわかったことをみなさんに知らせる仕事もしています。展示や講座、報告書という本を作る事などは、そのための仕事です。

さらに、発掘で見つかった土器などをしまっておくのも埋蔵文化財センターの大切な仕事です。コンテナ１３００箱ほどの遺物が収蔵庫にしまわれています。

音・不思議・・・

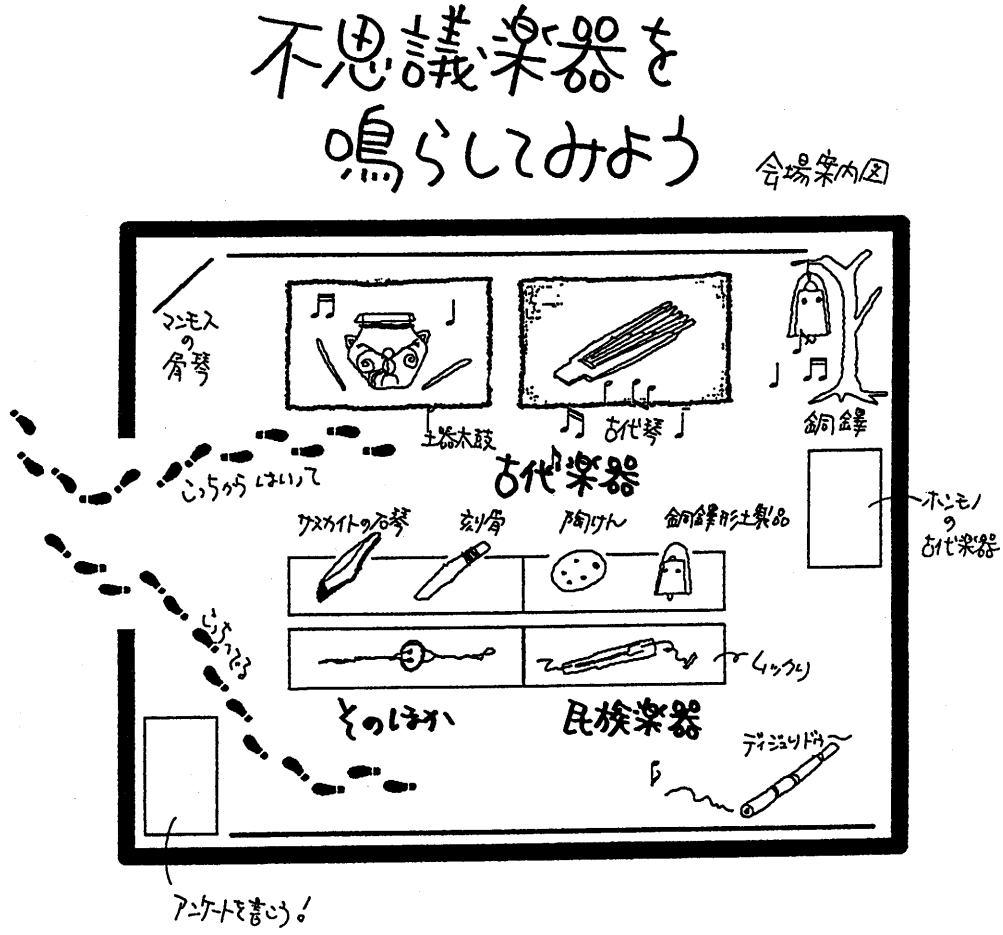
不思議楽器を鳴らしてみよう



● 日 時　8月21日(日)9:00 より
『ライフパークの集い』開催中

● 会 場　ライフパーク倉敷 第3会議室

倉敷埋蔵文化財センター



古代人と音楽

雷せては返す波、風の音、揺れる梢のざわめき、雷鳴、心臓の鼓動、手拍子、小鳥のさえずり、獣の遠吠え、・・・

音から世界は音に満ちていました。

あるとき人は、そうした音をあやつり楽しむようになりました。

2万年以上もむかし。旧石器時代の人びとは、動物の骨をつかい、フルート、パンパイプ、打楽器などをつくっていました。これが今のところ知られている最古の楽器です。そして、楽器は民族や地域ごとにすこしずつちがった姿に変わりながらどんどん発達していきます。

音の人達も、楽しいこと、悲しいこと、うれしいことがあったとき、自分たちの音楽を演奏して自分の気持ちをあらわしたにちがいありません。

今回の特別企画では、みなさんにそんな音の楽器をはじめいろいろな不思議楽器にふれていただきます。

さあ、楽しい音を出してみましょう。

楽器の種類

音の出しかたから楽器を5つの種類にわけることができます。このわけかたは、ザックスとホルンボステルという人が考えたわけかたです。

1. 体鳴楽器
   楽器そのものをたたいたりしてふるわせて音を出すもの ・・・ シンバル、ムックリなど
2. 弦鳴楽器
   糸をふるわせて音をだすもの
   ・・・ ギター、琴、ハープなど
3. 膜鳴楽器
   膜をふるわせて音をだすもの
   ・・・ 太鼓など
4. 気鳴楽器
   空気をふるわせて音を出すもの
   ・・・ 笛、トランペットなど
5. 電鳴楽器
   電気で音をつくったり、変えたりするもの
   ・・・ シンセサイザーなど

◎ 不思議楽器紹介 ◎

☆印のものがさわれます

古代楽器（復元）

1．骨琴（こつきん）
20000年むかし
旧石器時代の楽器。マンモスの骨をつかっている。
今回はその音のレコードをかけます。

2．土器太鼓（どきだいこ）☆
5000年むかし
縄文時代の楽器。お酒を作るうつわという説もある。

3．古代琴（こだいごと）☆
2000年～1500年むかし
弥生時代から古墳時代につくられた日本の琴の原型。
6本の糸をはっている。

4．銅鐸（どうたく）☆
2000年むかし
弥生時代のお祭りのベル。
青銅でできている。

5．小銅鐸（しょうどうたく）
2000年むかし
銅鐸の小型品。お祭りにつかった？

6．銅鐸形土製品
（どうたくがたどせいひん）☆
2000年むかし
土でつくった銅鐸の小型品。

7．刻骨（こくこつ）☆
2000年～1500年むかし
本物は骨をけずってつくっている。
デコボコをこすって音をだす？

8．陶けん（とうけん）☆
2000年むかし
弥生時代の土でつくった笛。
ビンの口をふいて音を出すときのようにしてふいてみよう。ポォっと音が出る。

9．犬笛（いぬぶえ）☆
5000年むかし
縄文時代の人たちが狩のときに犬に合図をおくるのにつかった笛。

民族楽器

1．ムックリ☆
北海道に住むアイヌの人たちの楽器。
口で音をひびかせる。
とても不思議な音がする。

2．ディジュリドゥー☆
オーストラリアに住むアボリジニの人たちの楽器。
シロアリが食い荒らしてつつになったユーカリの木をふく。今回は水道管をかわりに用意したので、ふいてみよう。

3．一弦琴（いちげんきん）☆
江戸時代ごろからある日本の琴。
弦が一本だけで、糸を指で押さえる位置によって音をあわせる。

4．うなり木
ひもの先に板をつけてふりまわす。
板が風をきると、ブーンと音がする。
オーストラリアのアボリジニの人たちや、沖縄の一部などに伝わっている。

5．パンフルート☆
植物のくきをつかった笛。
つつの先に息をふきこんでみよう。
つつごとにちがう音がする。

サヌカイト☆

古代人が石器をつくった石「サヌカイト」でつくった楽器。木琴ににているが、石でつくっているので、木琴ではなく「石琴（せっきん）」という。たたくと澄んだきれいな音がする。

そのほか

1．うぐいす笛☆
竹でつくった笛。とてもカンタンなつくりなのに、じょうずにふくと「ホーホケキョ」と鳴らすことができる。

2．かっこう笛☆
これも竹でできた笛。
「カッコウ」と鳴らしてみよう。

3．うなり円盤☆
ボタンをつかった不思議楽器。
カンタンにつくれるので、みんなも自分でつくってみよう。

4．なぞの楽器☆
まだ名前のない、できたてのヘンな楽器
どんな音がするかな？

ケースの中の展示品について

本物の古代楽器

◎ 古代琴　　岡山市南方釜田遺跡出土品　岡山市教育委員会蔵

◎ 刻骨　　岡山市津島江道遺跡出土品　岡山県古代吉備文化財センター蔵

◇これらの展示品はさわれません◇

不思議楽器のあそびかたなど

● おねがい
たのしく ただいたり ふいたりしてください。
でも みんなで あそぶんだから
こわさないように
きをつけようね

● たのしく 楽器をさわったあとは
アンケートを書いてください。
不思議楽器をもっとさわってみたいな、
とか、不思議楽器をつくってみたいな、
とか希望を書いてください。
いろんなあそびかたを考えてください。
つぎの講座・企画をするときの参考にします。

サヌカイト・コンサートのVTR上映

3月25日におこなわれたサヌカイト・コンサートのVTR上映を行っています。
会場 第3会議室（このとなり）
埋蔵文化財センター
上映開始時間 AM 10:00
PM 12:30
PM 14:30

不思議楽器の本（もっと知りたい人に）

♪『土の中のメロディ』
岩永文夫 著　音楽之友社
古代楽器について書かれた本。写真もたくさんのっている。とてもよい入門書。

♪『原始生活百科』
『民族楽器をつくる』
関根秀樹 著　創和出版
古代楽器や民族楽器のつくりかたがのっている。みんなもつくってみよう。

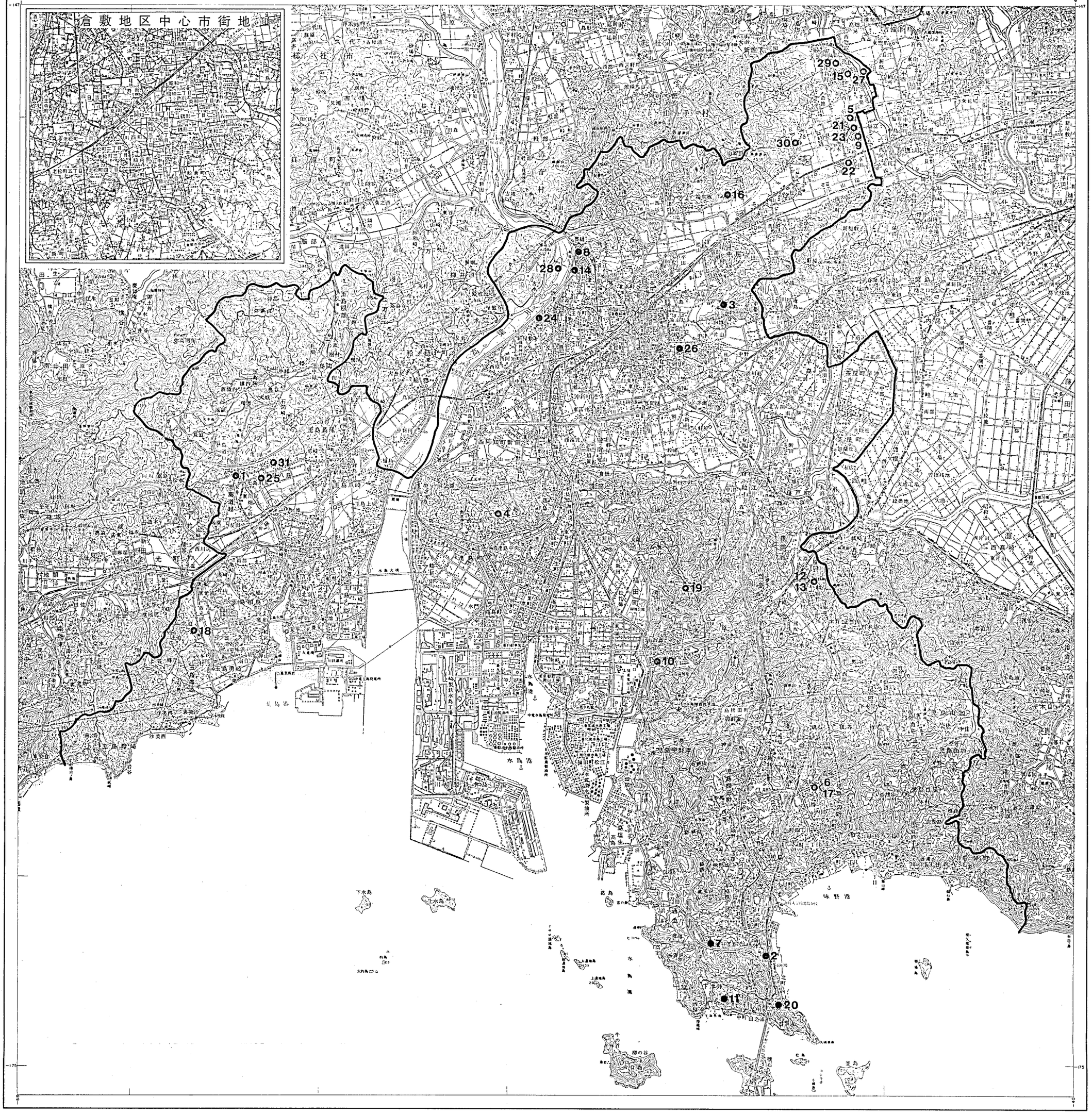
♪『きみも音楽家になれる』
トム・ウォルサー著　晶文社
みぢかな物をつかって音をだす方法、あんまりかたくならずに自分で音楽を楽しむ方法が書かれている楽しい本。

今回の企画でお世話になった方々と機関（敬称略）
白神明恵　平田旭　宮脇澄子
岡山県立博物館　岡山県古代吉備文化財センター
広島県東部工業技術センター　岡山市教育委員会
守山市教育委員会　倉敷市立美術館
ありがとうございました

Ⅲ 調 査 事 業

1994年度調査一覧表

No	遺跡名	調査地	調査原因	区別	調査期間	遺物・遺構の有無
1	八幡宮南貝塚	玉島道口2424番地先	道路改良	立会	94. 4.15	遺物・遺構無し
2	阿津－走出遺跡	児島阿津１丁目91－1	下水道管埋設	立会	5. 7	遺物・遺構無し
3	黒崎貝塚	黒崎地内	下水道管埋設	確認	5.17～ 5.18	縄文土器
4	宝島寺東古墳	連島町矢柄5633番地	新規発見	確認	5.17～ 5.25	須恵器・金環
5	上東遺跡	上東 341番地先	水路改修	立会	5.20	遺物・遺構無し
6	池尻遺跡	児島上の町4－6－22	保育園改築	発掘	6.11～95. 4. 5	石器・弥生土器他
7	菰池遺跡	菰池１丁目901－12番地	下水道管埋設	立会	6.21	遺物・遺構無し
8	酒津貝塚	酒津地内	下水道管埋設	立会	6.24	土師質土器
9	上東遺跡	上東 180－9番地先	道路改良	立会	6.29	遺物・遺構無し
10	広江－浜遺跡	広江１丁目 9－1番地	プール改修	確認	7.20～ 7.21	遺物・遺構無し
11	下津井城跡	児島下津井1103－5番地	公園園路整備	確認	7.22～ 7.26	瓦片・石垣
12	新熊野山遺跡	林 687番地	個人住宅	発掘	8.23～ 8.30	遺物・遺構無し
13	新熊野山遺跡	林 685番地	擁壁工事	立会	8.25	遺物・遺構無し
14	酒津－水江遺跡	酒津2826番地	公園歩道整備	立会	9.3	遺物・遺構無し
15	日畑廃寺	日畑487－70番地先	水道管埋設	立会	9.16	遺物・遺構無し
16	三田遺跡	三田491～511番地先	道路改良	立会	9.28	遺物・遺構無し
17	池尻遺跡	児島上の町４丁目2166	下水道管埋設	立会	10.12	遺物・遺構無し
18	中津貝塚	玉島黒崎 574番地先	道路改良	立会	10.12	遺物・遺構無し
19	真弓池遺跡	福田町福田422. 423	池の堤体内除草	立会	10.18	遺物・遺構無し
20	鷲羽山遺跡	児島大畠２丁目9－16	下水道管埋設	立会	11.1	遺物・遺構無し
21	上東遺跡	上東682～707番地先	道路新設	確認	11.4	遺物・遺構無し
22	上東遺跡	下庄 749番地先	水路改修	立会	11.29	遺物・遺構無し
23	上東遺跡	上東329－15番地先	水路改修	立会	12.8	遺物・遺構無し
24	酒津－水江遺跡	水江 952－2番地先	水路改修	立会	12.12	遺物・遺構無し
25	浜遺跡	玉島八島1892－2番地先	水路改修	立会	12.15	遺物・遺構無し
26	羽島貝塚	羽島599－1～641－2	道路改良	立会	12.26	遺物・遺構無し
27	日畑橋遺跡	日畑地内	水路改修	立会	95. 2.23	遺物・遺構無し
28	酒津－水江遺跡	酒津地先，高梁川堤外	遺跡範囲確認	確認	3. 2～ 3.28	弥生土器・住居址
29	楯築遺跡	庄新町819－11番地	給水塔フェンス	立会	3.9	遺物・遺構無し
30	砂原南遺跡	二子1524番地先	水路改修	立会	3.17	遺物・遺構無し
31	神前神社窯跡	玉島八島3491－2番地	公園擁壁改良	立会	3.18	遺物・遺構無し



調査地位置図（S＝／100,000）

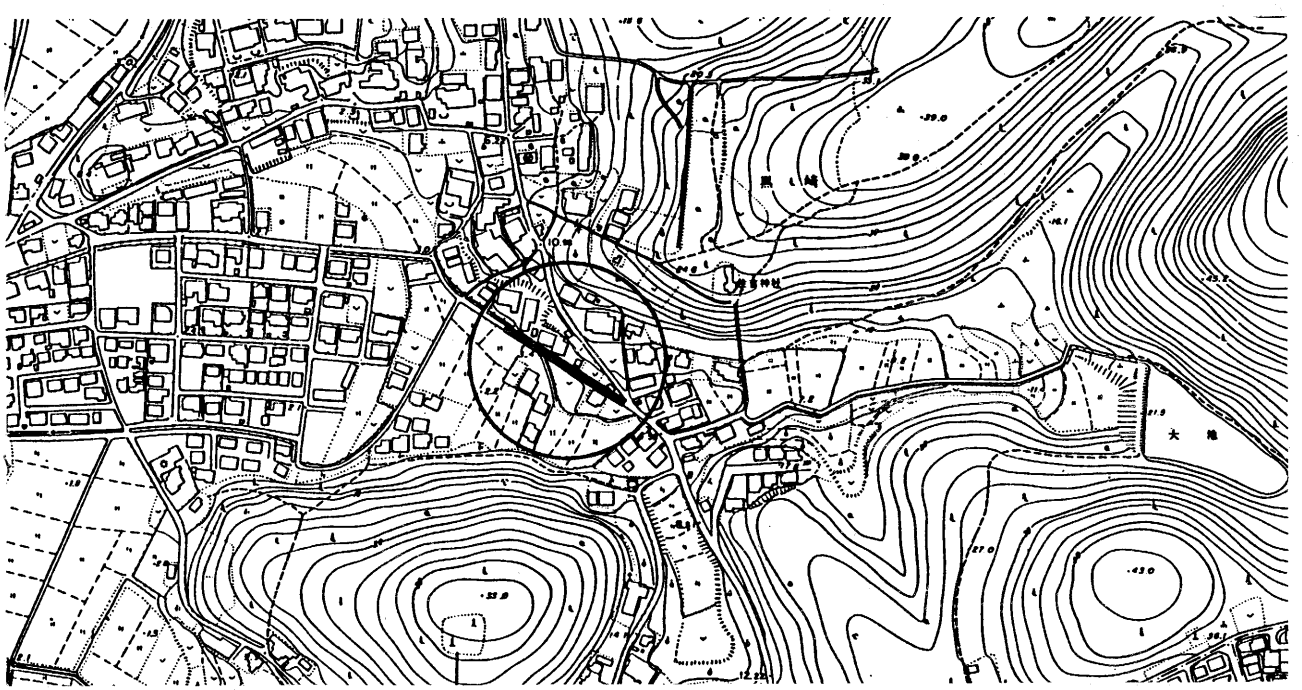
黒崎貝塚確認調査報告

遺跡名　　黒崎貝塚
調査地　　倉敷市黒崎地内（調査一覧表No.３）
調査期間　　1994年５月17日～５月18日

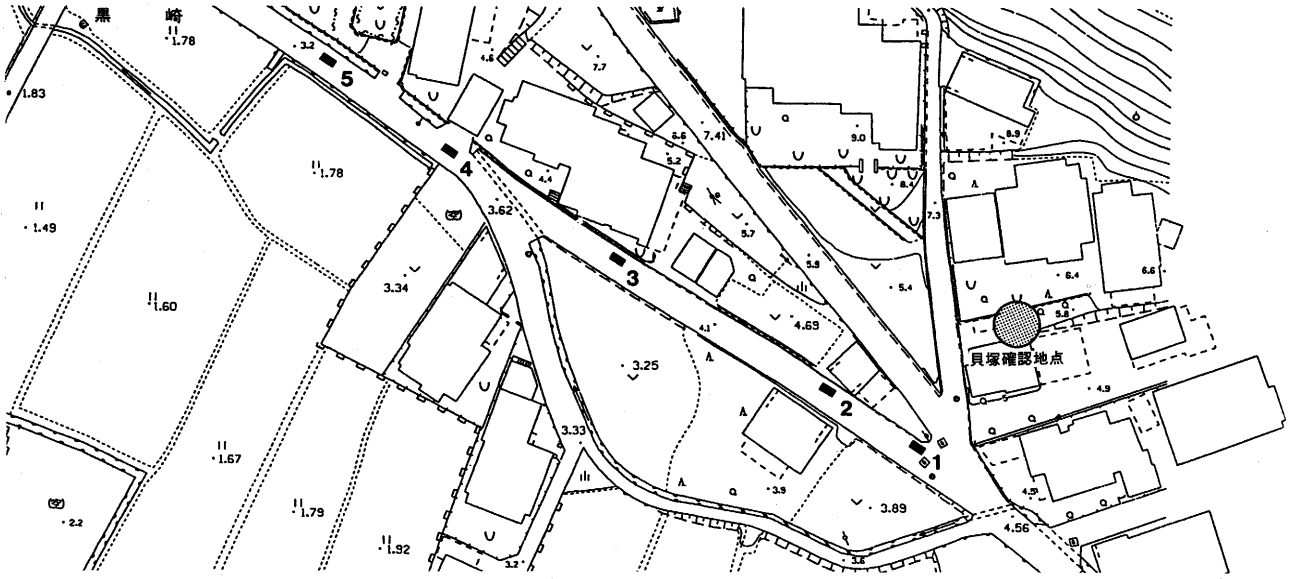
黒崎貝塚は，ＪＲ倉敷駅から東へ約2.5km，早島丘陵の西端部に位置する縄文時代の貝塚である。昭和８年，町村道の改修の際，縄文土器を始め石鏃や石包丁などの石器が出土したと伝えられるが[(1)]，現在この付近では貝殻や土器片等の散布はみられず，貝塚の規模やその残存状況など詳しいことについては明かではない。ところが，平成２年民家の庭でカーポートの支柱を建てるための穴を掘った際，貝殻をはじめサヌカイト片や獣骨・縄文土器などが出土しており，少なくとも貝塚の一部がこの地点に残存していることが明らかになった。

平成５年11月，この貝塚を横切る市道に下水道管を埋設する工事が，下水建設１課により計画された。工事に伴う掘削は，幅0.8m・深さ1.6～2.3mと比較的小規模のものであったが，遺跡が倉敷市でも数少ない縄文時代の貝塚であること，また下水道管が遺跡をほぼ縦断するようになることなどから，事前にトレンチによる確認調査を実施することになった。調査は，工事施工区間のうち遺跡にかかる約100mの間に，合計５箇所のトレンチを設定して行った。

トレンチ１・２では，アスファルト直下に50～60cmの造成土がみられ，その下に旧水田層，そして自然層を２層はさんで道路下 1.3～1.5mで基盤層と思われる淡茶灰色粘質土に達する。基盤層の高さはどちらも標高約3.0mである。トレンチ３では旧水田層はみられず，道路下0.7m，



調査地位置図（Ｓ＝１／5,000）



トレンチ配置図（S＝1／1,000）

標高約3.2mで基盤層に達する。トレンチ4では，道路下1m あたりで貝殻及び縄文土器を含む暗茶褐色土が認められたが，この層の下には，近現代の瓦を含む青灰色シルト層が存在しており，2次堆積と考えられる。こうした2次堆積土が道路下約1.8m，標高約1.7mまで認められ，道路の造成に伴いかなりの盛土が行われたことがわかる。この下は青灰色の粘質土となり，ここから杭列を検出したが，道路造成以前の水田に関係する水路に伴うものと思われる。トレンチ5では，トレンチ4とほぼ同様な土層を示し，最下層の青灰色粘質土からはトレンチ4の続きと思われる杭列を検出した。

今回の確認調査では貝塚そのものを確認することはできなかったが，トレンチ4において，2次堆積ではあるが貝塚や縄文土器を含む土層が認められたことは重要である。なぜなら，問題とするこの混貝土層を今一度観察してみると，新しい時期の遺物は全く含まず，土のしまりはやや悪いものの造成によるよごれもなく，この層だけを見れば貝塚の一部と考えてもさしつかえないものである。このような土層が造成土中にあるとすれば，それは離れた地点から運ばれたものではなく，ごく近くにおける造成に伴うものである可能性が強い。したがって，地形的にみて，トレンチ4のすぐ北側あるいは東側に貝塚が存在していたことが考えられるが，それでは，先に述べた平成2年に確認された貝塚との関係はどうであろうか。両地点間の距離は70～80mあり，西日本における縄文貝塚のあり方をみれば，これらが一つの貝塚の別地点と考えるにはやや無理があるので，それぞれ異なる貝塚と考えるほうが妥当と思われる。また，トレンチ4における混貝土層がトレンチ3・4ではみられず，トレンチ1においても貝殻等が検出されなかったことから，これらの貝塚は比較的小規模なものであったと思われる。現在この付近の田畑においてさえ，貝殻や土器片等がほとんど散布していないことは，こうした考えを裏付けよう。

以上，今回の確認調査では貝塚あるいはそれに伴う包含層の検出はできなかったものの，黒崎貝塚のあり方を考えるうえで一つの手がかりが得られた点は評価できるであろう。　（鍵谷）

註(1)　中村常三郎『中庄村誌』1933

宝島寺東古墳確認調査報告

遺 跡 名　　宝島寺東古墳
調 査 地　　倉敷市連島町矢柄5633（調査一覧表No.４）
調査期間　　1994年５月17日～５月25日

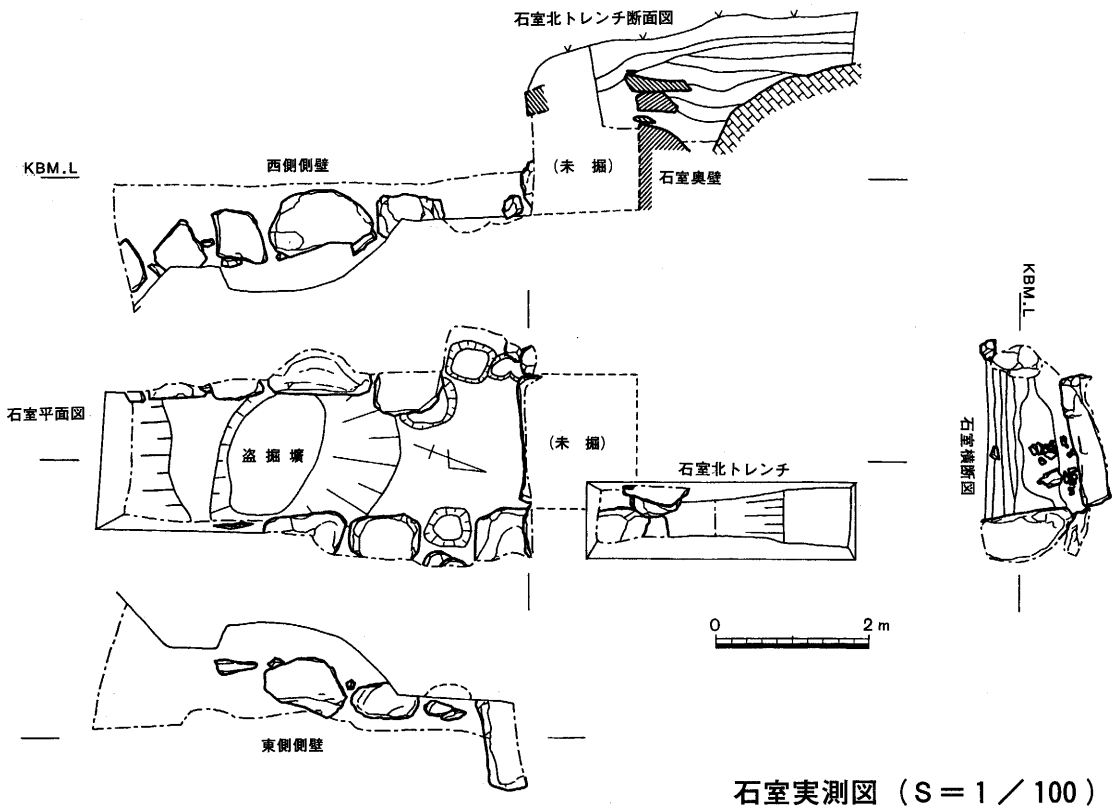
連島の丘陵のやや東寄り，宝島寺の伽藍より東へ約60mの南向きの畑地に立地しており，すぐ東には稲荷社が祀られている。周辺はかつて竹林であったが，今回整地され，畑地として耕作中に新たに発見された古墳である。古墳築造当時は，海は連島の山裾まで寄せていたと思われ，古墳は水島灘を見渡せる山腹に築かれている。

周辺は，中世頃には既に開墾がなされていたようで，現況で観察する限り，墳丘の残存は認められない。今回石室の北に，石室の奥壁，掘りかたを確認すると同時に，周溝の存否も確認するためトレンチを設定した。ここでは墳丘土の一部は確認できたものの，周溝，墳形については明らかにできなかった。しかし周辺の古墳の例，あるいは石室の規模などから，少なくとも径10mをこえる規模の円墳であったろうと推定される。

調査地位置図（S＝１／5,000）

主体部は南南西に開口する横穴式石室である。現況では開墾等により，奥壁部分を除き，石室の上半部はほとんど壊失している。また現在法面にみられる天井石も原位置を保っているものはないようである。石室の規模は現存長約７m，床面での幅1.7～1.95mを測る。石室西側中央付近に側壁の一部が内側に突出している箇所がみられるが，あるいは片袖の形式を意識したものかもしれない。石室の高さについては明確にしえないが，残存している奥壁の高さからみて，おおむね1.8m程度であろうと思われる。石室の床面は，南に向かってかなり傾斜しており調査区の北と南とでは約90cm近い差が認められた。また石室床面は大きく撹乱されており，中央に大きな盗掘壙があけられている。

石室は全面にわたって盗掘を受けていたようで，石室床面からの遺物の出土は皆無で，遺物はいずれも盗掘壙の埋土中から出土している。これらのうち古墳に伴うと思われるものはわずかに須恵器高坏１点，鉄鏃１点，刀子１点，金環２点のみである。須恵器高坏は短脚の小型のもので鉄鏃は茎部のみの破片である。金環はいずれも完形であるが，それぞれ径が異なることから２組



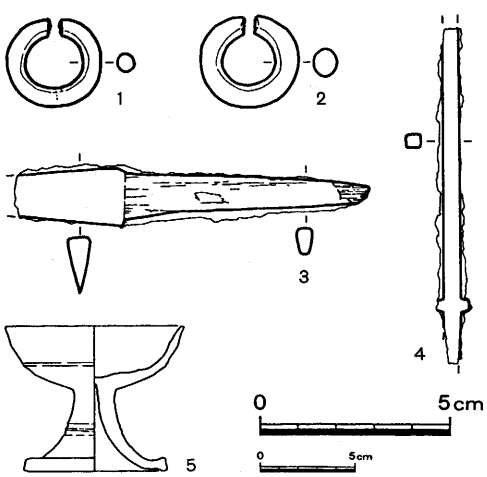
石室実測図（S＝1／100）

以上が副葬されていたと考えられる。

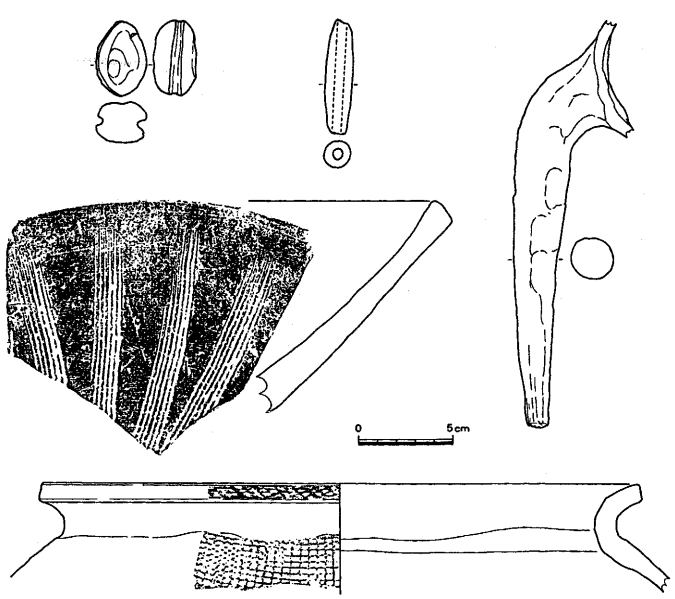
出土遺物が少ないため明確にしえないが，高坏の形態からおよそ7世紀初頭の年代があたえられる。古墳もこの前後の時期に築造され，少なくとも1回の追葬を受けていると考えられる。

また、古墳に伴う遺物以外には中世の遺物が比較的多く出土している。いずれも盗掘壙埋土中からの出土で，主なものとしては亀山焼甕，備前焼摺鉢，土鍋，土錘，鉄釘等がある。

（藤原）



遺物（1～4：S=1／2　5：S=1／4）



中世遺物（S＝1／4）

広江・浜遺跡確認調査報告

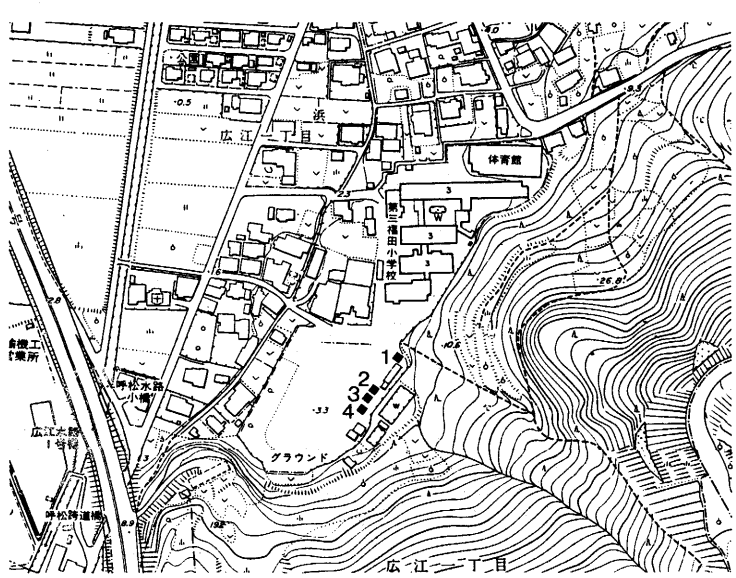
遺 跡 名　　広江・浜遺跡
調 査 地　　倉敷市広江１丁目９－１（調査一覧表No.10）
調査期間　　1994年７月20日～７月21日

本調査は，倉敷市立第三福田小学校のプール改築工事に先立ち，遺跡の分布状況を確認するために実施された。広江・浜遺跡は，干拓以前，周囲が海に面していた児島の西岸に位置し，地名のとおり海浜に立地する遺跡である。同小学校の校舎建設の際に行った発掘調査により，縄文時代から中世にかけての複合遺跡であることがわかっている。その発掘調査の出土遺物には，縄文時代後期から晩期の土器，石器。弥生時代前期・中期・後期の土器，銅戈断片。古墳時代後期の製塩土器，土師器，須恵器。奈良・平安時代および中世の土器類がある。とりわけ師楽式土器とよばれる古墳時代後期の製塩土器の出土量は夥しい。

調査地は，多くの遺構・遺物が発見された校舎群の南約50mの校庭で，既設のプール西側に近接して４つのトレンチを設定した。第１トレンチでは，表層である造成土の下は花崗岩が密に存在し，その隙間には少量の須恵器，土師器を含む灰色砂質土がみられる。この花崗岩は，自然の露岩と思われ，造成工事により掘削されて地表に現れた際に灰色砂質土が流れ込むようなかたちで二次的に堆積したものと判断される。第２・３トレンチでも，造成土の下に，二次堆積したものと思われる灰色粘質土層が存在している。遺物は，造成土と灰色粘質土層から須恵器，土師器の小片が少量出土している。第４トレンチでは地表下60cmで，拳大の円礫を含む黒色粗砂がみられる。海浜の砂と思われ，あたかも海辺にうちあげられて溜まったような状態で竹などの植物が含まれていた。このトレンチでは，時代を示すような遺物は発見されていないが，旧海岸の地形をうかがい知ることができる。

以上のように，今回の調査地では遺構や明瞭な遺物包含層は検出されていない。

調査地周辺の地形は，先の造成工事により大きく変形していると考えられるが，プールが改築される場所は遺跡背後の山裾部にあたり，第４トレンチ付近から南東に向かって海浜が湾入していたと想定される。　　（小野）

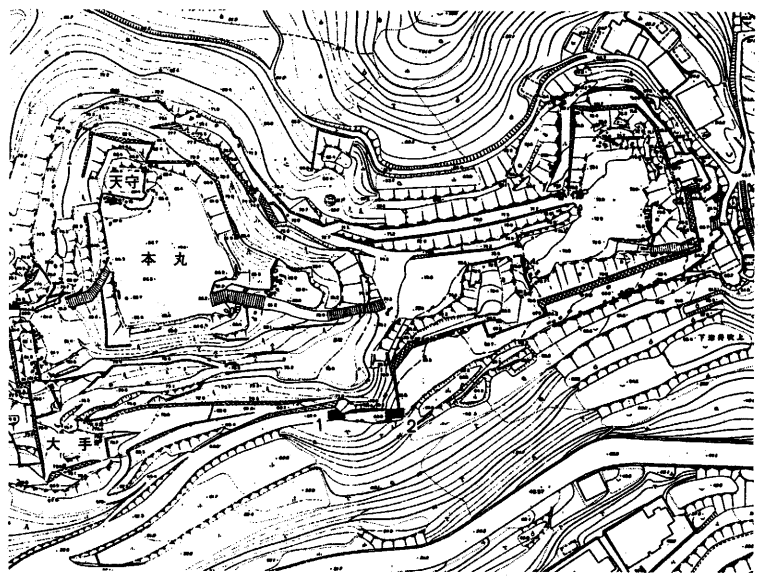


トレンチ配置図（S＝１／5,000）

下津井城跡確認調査報告

遺 跡 名　　**下津井城跡**
調 査 地　　**倉敷市児島下津井1103－5（調査一覧表No.11）**
調査期間　　**1994年7月22日～7月26日**

下津井城は児島の南端，下津井港の北の丘陵上に位置しており，瀬戸内を往来する船舶を一望することができる。慶長八年（1603），岡山藩家老池田長政が入城し，岡山城の支城として現在のような姿に改修したとされている。

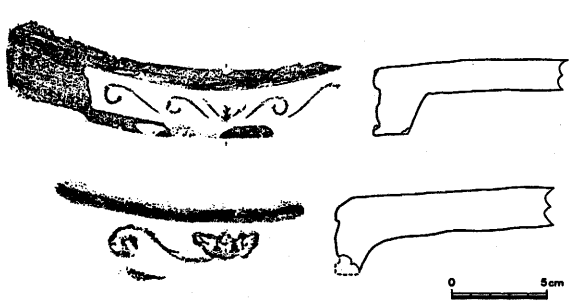


調査地位置図（S＝1／2,000）

今回の発掘は，公園整備事業に伴って実施したものである。調査箇所は東西に細長い下津井城のほぼ中央部，本丸の南東下方に突出する郭の石垣基部である。突出部の東西の角にあたると思われる地点2箇所にトレンチを設定した。下津井城は廃城後に徹底的な破城が実施されたらしく，各部の角の部分は完全に突き崩されている。

調査の結果トレンチ1では，地下に石垣の下部が残存しており，角を確認することができた。しかし，今回検出した石が石垣の第一段目のものかどうかは調査範囲が限られたため確認することができなかった。

またトレンチ2では，南面する石垣の第一段目を検出した。第一段目は地山の直上に据えられており，根石などは見られなかった。また，東面する石垣の下部は南面する石垣の第一段目よりさらに低い位置から築き始められており，角よりも南に伸びていることが判明した。南に伸びる石垣は残存する角の石にかみ合う形で積まれており，後に継ぎ足されたものではないことがわかる。南端は確認できなかったが，南側の斜面にそれらしい石垣の続きを認められなかったのでそれほど続いてはいないものと考えられる。石垣は奥に向かって長い石を積んだゴボウ積みで，裏込めは拳大から人頭大の礫を使用している。



軒平瓦（S＝1／4）

遺物としては巴文軒丸瓦破片4点，軒平瓦2点を含む瓦が出土している。　　（藤原）

新熊野山遺跡確認調査報告

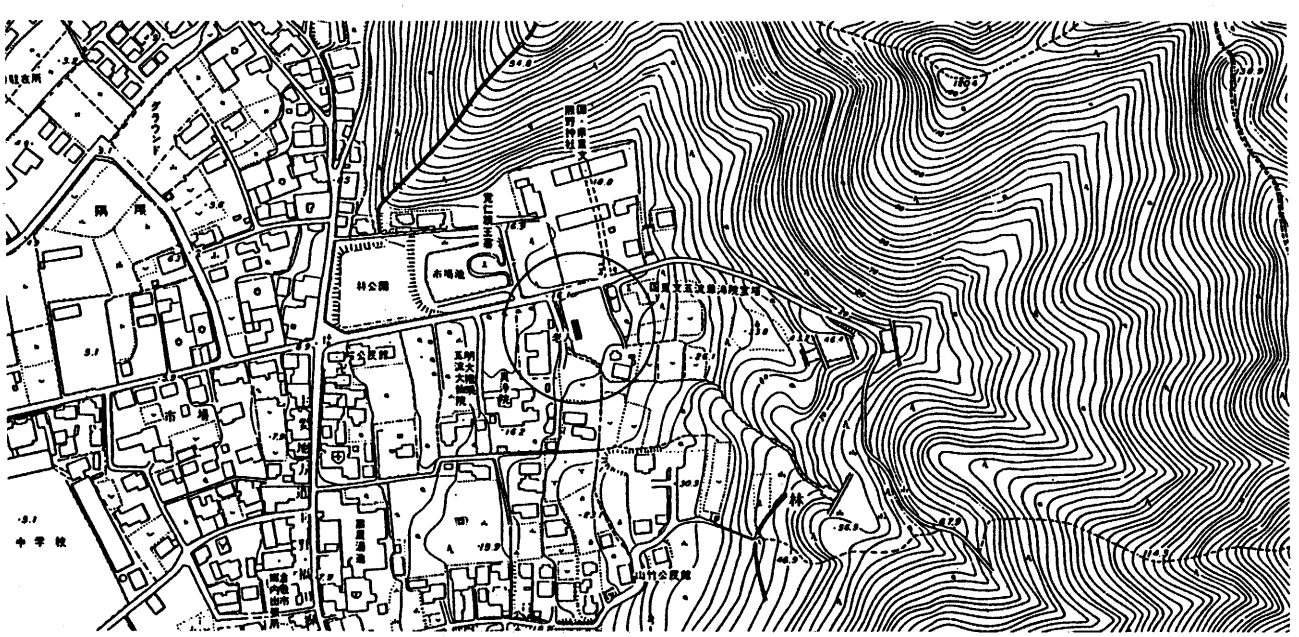
遺 跡 名　　新熊野山遺跡
調 査 地　　倉敷市林687番地（調査一覧表No.12）
調査期間　　1994年8月23日～8月30日

今回の調査は，個人住宅建設に伴い実施した確認調査である。

調査地近辺は古くから修験道が栄えたところとして知られており，このあたり一帯は「新熊野山」として岡山県の史跡に指定されている。また，指定地域には熊野神社本殿や五流尊瀧院宝塔など，指定文化財が数多く存在することでも有名である。

調査の対象となった地点は，熊野神社から道路をはさんでちょうど反対側にあたる約900㎡くらいの平坦地で，浄化槽設置予定地に1m×3mのトレンチを設定して調査を行った。トレンチは，地表下約60cmまでは非常に硬くしまった土層が互層状にほぼ水平に堆積しており，少量の土師質土器片が含まれていることから，中世以降の造成に伴うものと考えられる。この下には，5～20cm程度の礫を多く含む土層が2層認められるが，地形に沿って南から北へ徐々に傾斜しており，また，遺物も混入と思われる土器細片が1点しか出土していないことから，自然堆積層（流土）と考えてよいと思われる。地形の高いトレンチ南端では，地表下約80cmで地山である花崗岩バイラン土を検出した。地山は北へ向かって傾斜しており，トレンチのほぼ中央，地表下約1.2mの深さまで確認した。

以上の結果から，調査の対象となった平坦部は，礫を多く含む自然堆積層の上に，中世以降の造成によって形成されたものと考えられる。（鍵谷）



調査地位置図（S＝1／5,000）

上東遺跡確認調査報告

遺跡名　　**上東遺跡**

調査地　　**倉敷市上東682～707（調査一覧表No.21）**

調査期間　　**1994年11月4日**

上東遺跡確認調査は，市道上東50号線建設工事に先立ち，遺跡の分布状況・性格を明らかにするために行われた。

調査地は，倉敷市の北東を流れる足守川の西岸に位置する上東の水田地帯で，周囲には古くからの民家が立ち並ぶ城ノ内，東村，中村の集落がある。おそらくこういった集落は足守川の自然堤防上に形成されており，弥生時代以降，ひとびとの生活場所として選ばれた微高地とも重なり合う部分が多いと考えられている。

調査は，工事予定地内に2m×2mのトレンチを4箇所設定して行った。各トレンチでの土層堆積状況は，基本的には同様である。すなわち，現在の耕作土の下は，黄灰色系の粘質土層の堆積がみられ，地表下100cm～130cmで暗緑灰色シルト層となっている。第1トレンチでは粘質土層から弥生時代の土器が1片出土しているが，磨滅が著しいことから，周辺からの流れ込みと思われる。第3トレンチでは暗緑灰色シルト層に自然木の丸太が混入している。この他は全く遺物は出土していない。

以上のように，今回の調査では遺物包含層は認められず，遺構は検出されていない。

なお，1987年度に今回の調査地点のすぐ北を走る市道の建設に先立ち，確認調査が行われており，そこでは，トレンチの下層がヨシのような植物遺体を多く含む泥質層となっていることから，比較的新しい時代まで沼地のような状況を示す低湿地が残っていたと思われる。

今回の調査地点でのトレンチ下層はそれとは状況が異なっているが，やはり弥生時代頃は微高地周辺の低地の状況を呈していたのではなかろうか。　（小野）

トレンチ配置図（S＝1／5,000）

酒津－水江遺跡確認調査報告

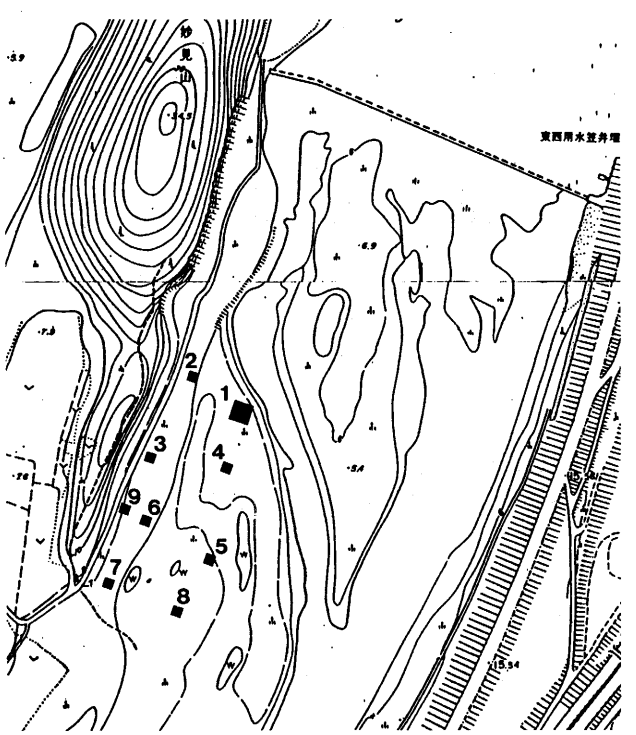
遺 跡 名　酒津－水江遺跡
調 査 地　倉敷市酒津地先，高梁川堤外（調査一覧表No.28）
調査期間　1995年３月２日～３月28日

平成６年度酒津－水江遺跡の確認調査は，高梁川本流の右岸，妙見山の南東裾周辺を中心に実施した。当該確認調査は，1978年度からの継続事業であり，当年度で第17次の調査となる。調査は対象区域内に２m×２mのトレンチを８箇所，５m×５mのトレンチ（第１トレンチ）を１箇所設定し行った。

このうち川岸部分の第１トレンチでは，標高4.4m付近で灰褐色の粘質土がみられ，この層を基盤として20個におよぶ土壙群が検出された。これらからは，土師質椀・土鍋・小皿・須恵質土器片等の中世土器片が多量に出土しているが，建物等としてのまとまりのあるものは確認されていない。中世遺物包含層の下方には，弥生時代中期末頃の土器片を含む層がみられ，標高4.0m付近で明褐色粘質土を基盤として竪穴住居跡が確認された。住居跡は，調査区の関係からわずかな部分でしか検出されなかったが，明確な柱穴や壁体溝を有しており，径４～５mの円形を呈している。

山寄りに設定した５箇所のトレンチでは，いずれも明確な遺物包含層は認められておらず，第２・３・６トレンチでは標高４m以下は灰色のシルト層となっている。また第９トレンチでは，標高5.2m付近で赤褐色の地山土が確認され，第６トレンチ方向に向かって急に下がっていくものと推測された。なお妙見山の末端に近い第７トレンチでは，他で見られたような灰色のシルトは認められず，標高3.6m付近で硬質の黄褐色粘質土となる。

また，妙見山の山際から60mほど離れた川寄りに，３箇所のトレンチを設定した。これらのいずれからも中世・弥生時代の遺物包含層がみられ，第４・５トレンチでは黄褐色粘質土の基盤層が確認されている。しかしながら，第８トレンチでは遺物包含層は検出されるものの，標高3.8m以下は灰色のシルト層が続き，南に向かって湿地状に落ち込んでいくものと推測された。（福本）



トレンチ配置図（S＝１／5,000）

池尻遺跡発掘調査概報

遺跡名　池尻遺跡

調査地　倉敷市児島上の町４－６－72（調査一覧表No.６）

調査期間　（確認調査）1994年６月11日

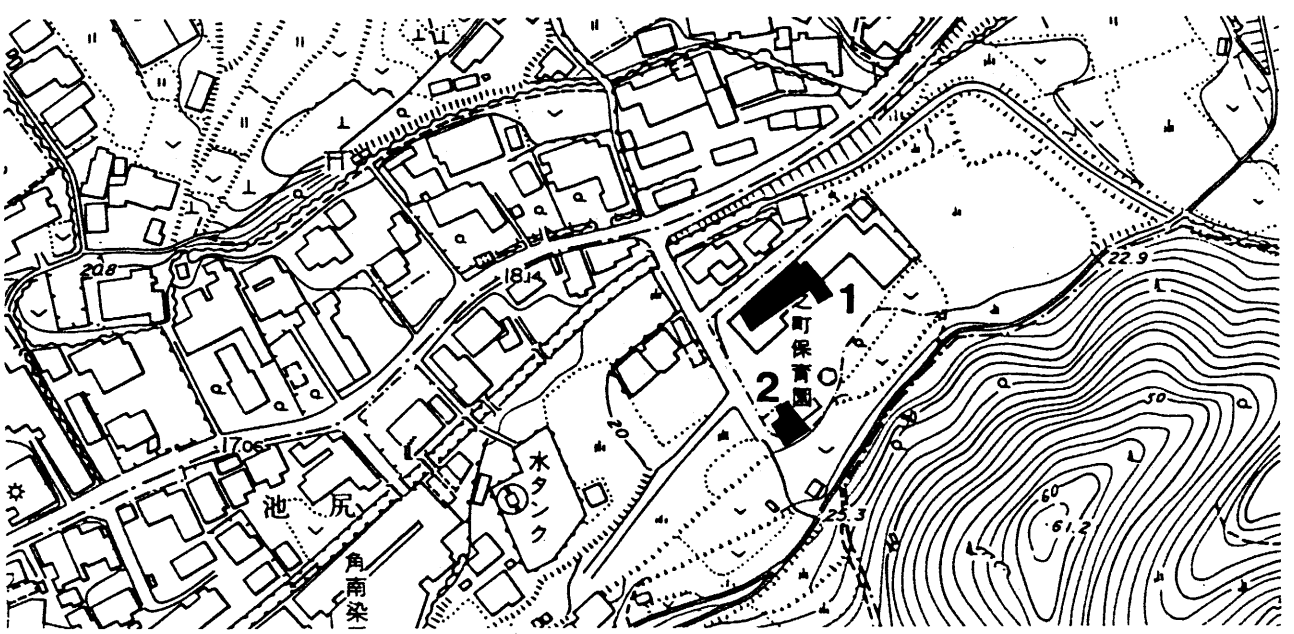
（発掘調査）1994年10月１日～11月25日（園舎部分）

1995年３月８日～４月５日（プール部分）

池尻遺跡は，倉敷市児島上の町に存在する遺跡である。この遺跡は，南北を丘陵の尾根筋に挟まれた小さな谷間に位置している。遺跡は，倉敷市立上の町保育園内にあり，昭和43年の保育園拡張工事で新規に発見されたものであり，倉敷考古館の研究集報で紹介されている。(1) 当時の出土品は，弥生時代中期を中心とした弥生土器・石器等の遺物および，古墳時代から中世にわたる土器の出土も認められている。

今回の調査は，平成５年度に倉敷市立上の町保育園の改築が計画されたため，平成６年度に確認調査と，発掘調査を行ったものである。

池尻遺跡の遺跡範囲確認調査は，建物基礎工事の必要な保育園の園舎改築部分および，プール部分について，平成６年６月11日に行った。その結果，園舎部分については建物予定地の東側の大半部，プール部分についてはほぼ全域にわたり遺物包含層が認められた。このため，遺跡保存等について担当部署と協議の結果，園地が限られており改築場所の変更等は困難なため，やむをえず改築工事に先立ち，改築が予定されている園舎部分およびプール部分の発掘調査を２期に分けて行った。



調査区位置図（S＝１／2,500）　１は園舎部分，２はプール部分

園舎部分は，確認調査時にトレンチ下層で砂礫層が認められており，谷の旧流路内の可能性が高いと考えられていた。発掘調査では，調査区の東端に中世の池状遺構が確認された。この池状遺構は，検出された部分で幅約4.2m・南北約7.0m・深さ約1.3mを測る。池状遺構の埋土中からは，鎌倉時代と考えられる土師質の高台付き碗や備前焼の陶片が出土している。また，池状遺構の南側では，自然流路の跡と思われる南北に延びる溝も確認されている。

調査区の中央部では，谷の旧流路の流れに伴うと考えられる砂礫群が3箇所検出された。この砂礫群は，堆積の切り合いから時期の異なるものと確認でき，谷の流路が何度も変わったことがうかがえる。これらの礫群の上面からは，大量の弥生土器およびサヌカイト製の石鏃等の石器や剝片が出土した。出土した弥生土器は，弥生時代中期末頃のものが大半であるが，他に弥生時代前期末頃の土器片も1点確認されており，付近には同時期の遺跡の存在もうかがえる。砂礫群の上面から出土したこれらの遺物は，谷の流路内からの出土であるため，原位置を留めていないものと考えられる。

調査区の西端部分では，南北方向の溝状遺構が確認された。この溝は，検出された部分で幅約1.4m・深さ約1.3mを測る。ただし，この溝状遺構は上面がかなり削平されており，当初の溝は現状より幅・深さともに数値を上回るものと思われる。出土遺物は，溝の底面から奈良時代のものと考えられる完形の須恵器の壺と高台付きの坏の破片が出土している。

プール部分は，確認調査時にプール予定地北東部から2mほど東へ設定したトレンチで，弥生時代の明瞭な遺物包含層が確認されており，調査区における遺跡の存在状況はかなり良好であると考えられていた。しかし，重機により造成土を除去した結果，調査区中央部付近は，東西に延びる溝状の撹乱により，大きく破壊を受けていることが明らかになった。また，旧地形が高くなる調査区南半部では，保育園造成時の削平が自然地形にまで及んでおり，明瞭な遺物包含層としては，調査区北東端から北西端へかけてのわずかな部分が残存しているにすぎなかった。全体的に黒褐色を呈するこの遺物包含層は，厚い部分で約60cm，薄い部分で約20cm程度の厚さで残存していた。

ここから出土した遺物としては，弥生土器とサヌカイトの石鏃・石包丁・剝片等がある。このうち，出土量の最も多い弥生土器は，園舎部分と同様そのほとんどが中期末頃のものであり，これ以外の時期のものはいまのところ確認されていない。これらの土器に混在して，調査区北東部で分銅形土製品が2点（1・2）出土している。

検出した遺構としては，柱穴10基と溝状遺構1基がある。柱穴は，深さ50cm程度のものが2基ある以外はいずれも深さ15～20cm程度で，全体的な残存状況はあまり良くなかった。また，建物としてまとまりをもつものも確認されていない。調査区北東端で検出した溝状遺構は長さ約1.5m，幅20cm，深さ5cmで，ほぼ南北に延びる細い溝の底部の一部と思われる。

包含層以外から検出した遺構としては，調査区の南端で検出した，東西へ延びる最大幅2m，最小幅75cmを測る自然流路の跡がある。流路埋土からは弥生土器，サヌカイトの石鏃・石包丁・石鎌・剝片等が出土したほか，須恵器の破片もわずかではあるが確認されている。また分銅形土

製品も２点（３・４）検出されている。

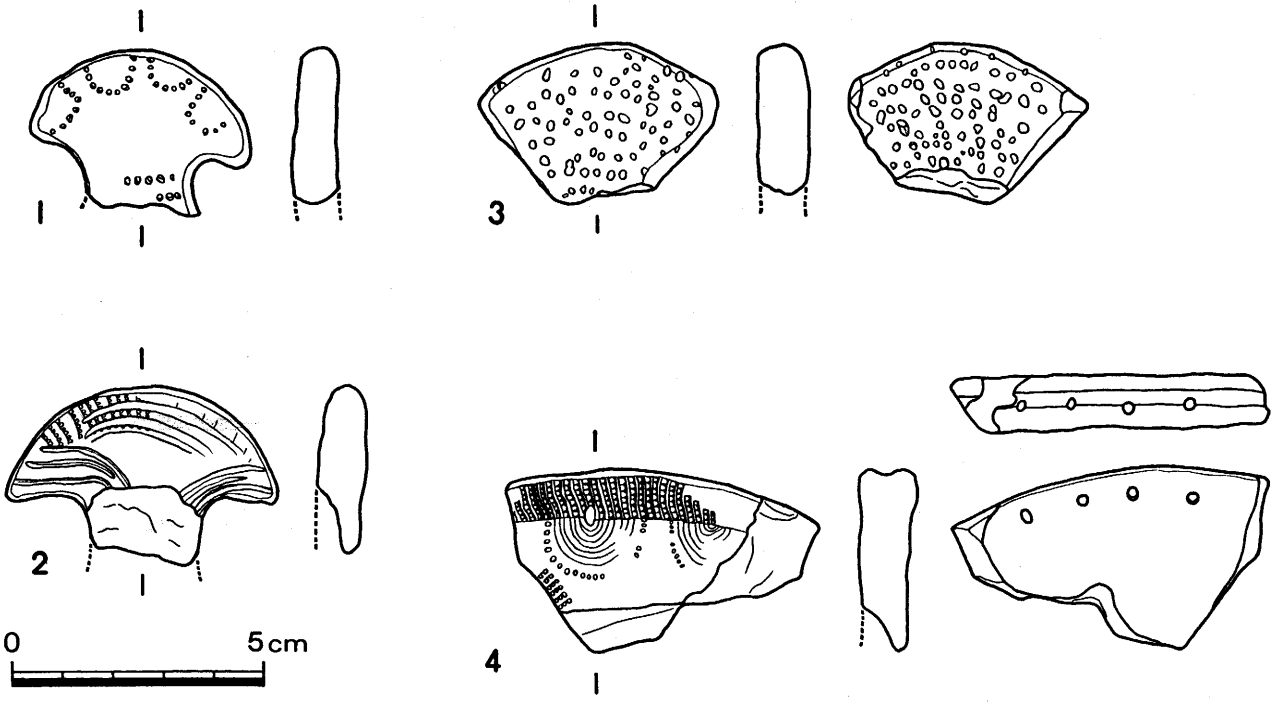
今回の発掘調査では，保育園の園舎部分の遺跡は，大半が谷の流路にあたり，この谷の流路も何度も流れの方向が変わっていったことが認められた。また，この谷は年月の経過とともに内部の堆積が進行したようであり，この結果一部では，池状の遺構等として検出された。出土した遺物は，大半のものが弥生土器であり，これらの土器はすべて谷の流路内から出土しているため，原位置をとどめていないものと考えられた。池状の遺構内からは，多くの中世土器等が検出されたが，大半が池の中の堆積が進んだ時期に埋まったことがうかがえられた。

プール部分は，旧地形を保っていたようであったが，保育園の造成時に遺物包含層の大半が削平され，一部が残っている状況であった。この残存部分の包含層からは，大量の弥生土器等が検出された。

以上の状況から，当遺跡は，北側は谷の流路にあたり，遺物包含層の残存状況から南側の山の尾根裾部分に遺跡の本体が存在することが推測された。（片岡）

註

(1) 間壁葭子「児島上之町保育園内遺跡」『倉敷考古館研究集報　第６号』　1969



プール部分出土　分銅形土製品（Ｓ＝２／３）

Ⅳ　寄贈図書一覧（94.4.1～95.3.31）

【北海道　01】	
苫小牧市埋蔵文化財センター	調査年報6　平成5年度
(財)北海道埋蔵文化財センター	とまこまい埋文だより　No35・No36
【青森県　02】	
青森県埋蔵文化財調査センター	稲垣村久米川遺跡発掘調査報告書，三内丸山（2）遺跡Ⅲ，山元（3）遺跡，朝日山遺跡Ⅱ，塔ノ沢山（1）　遺跡・大沢（1）遺跡発掘調査報告書，内真部（4）遺跡，日渡遺跡，畑内遺跡Ⅰ
【岩手県　03】	
(財)岩手県文化振興事業団	紀要XIV
平泉町教育委員会	白山社遺跡第2次発掘調査報告書，衣関遺跡第1次発掘調査報告書，柳之御所跡発掘調査報告書，平泉遺跡群範囲確認調査報告書，平泉遺跡群発掘調査報告書，志羅山遺跡第13・15・16・17・18・20次発掘調査報告書，倉町遺跡第1次・志羅山遺跡第11・12・19・22次発掘調査報告書，花立Ⅰ遺跡第5次発掘調査報告書，柳之御所跡発掘調査報告書
【宮城県　04】	
多賀城市埋蔵文化財調査センター	多賀城市埋蔵文化財調査センター年報　平成5年度，多賀城市埋蔵文化財調査センター年報　第7号，常設展示解説書，市川橋遺跡ほか，柏木遺跡B地区発掘調査報告書
【山形県　06】	
米沢市教育委員会	米沢市文化財年報　No7，一ノ坂遺跡発掘調査概報　第4集，矢子山城跡　第1集，遺跡詳細分布調査報告書　第7集，塔ノ原発掘調査報告書，米澤城発掘調査報告書，直江石堤　谷地河原堤防測量調査報告書，窪平遺跡
【福島県　07】	
(財)いわき市教育文化事業団	国塚遺跡発掘調査概要，いわき市教育文化事業団　年報4，小山遺跡　奈良時代から平安時代の集落跡
(財)福島市振興公社	台畑遺跡，国道114号線国道改良工事関連埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告，平成3年度遺跡詳細分布調査報告書，摺上川ダム埋蔵文化財発掘調査報告1　赤沢口遺跡・清水遺跡，摺上川ダム埋蔵文化財発掘調査概要，飯坂南部土地区画整理事業関連遺跡調査報告Ⅱ，敷ヶ森遺跡，一般国道13号福島西道路関連遺跡発掘調査報告，摺上川ダム埋蔵文化財発掘調査報告2，摺上川ダム埋蔵文化発掘調査概要Ⅱ，五郎兵衛館跡，大鳥城跡
【茨城県　08】	
勝田市埋蔵文化財調査センター	勝田市埋蔵文化財調査センター要覧，かつた埋文だより　創刊号・2号
土浦市立博物館	土浦市立博物館紀要　第5号
【栃木県　09】	
(財)栃木県文化振興事業団	埋蔵文化財センター年報　第4号，研究紀要　第1・2号，やまかいどう　No7～No11
栃木県教育委員会	砂部遺跡，三ノ谷東・谷館野北遺跡，栃木県埋蔵文化財保護行政年報（平成4年度），下野国分寺跡X，那須官衙，連遺跡Ⅰ，古宿遺跡，塙平遺跡Ⅰ，三百目遺跡，金山遺跡Ⅱ，田間東道北遺跡，塚崎遺跡，石神遺跡　第2次調査，長岡百穴A遺跡
【群馬県　10】	
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	遺跡に学ぶ　第4・5号，研究紀要　11，年報　13，埋文群馬　No21・22，多比良平野遺跡・白石根岸遺跡，白井遺跡群　集落編Ⅰ　（白井二位屋遺跡），天引狐崎遺跡Ⅰ・白倉下原・天引向原遺跡Ⅰ　旧石器時代編，二之宮宮東遺跡，今井道上遺跡，元総社寺田遺跡Ⅱ　《木器編》，黒熊中西遺跡（2），笂井八日市遺跡，矢田遺跡Ⅴ　古墳時代住居編（2）

【埼玉県　11】	
(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	考古百科⑬　旧石器時代の始まり，考古百科⑭　旧石器時代のムラ，考古百科⑮　石器の移り変わり，考古百科⑯　旧石器時代の終わり
埼玉県立埋蔵文化財センター	埼玉県立埋蔵文化財センター　年報３，埋文さいたま　第16～18号
埼玉県立さきたま資料館	資料館報　No25，調査研究報告　第７号
全国埋蔵文化財法人連絡協議会事務局	全国埋文協会報　No38～40
【千葉県　12】	
(財)印旛郡市文化財センター	財団法人印旛郡市文化財センター年報　９・10，佐倉市上座壱番原遺跡発掘調査報告書，高岡遺跡群Ⅰ，高岡遺跡群Ⅱ，公津東遺跡群Ⅰ，尾上柳作遺跡，篠山新田六ツ塚遺跡発掘調査報告書，臼井田小笹台遺跡発掘調査報告書，木曽地遺跡発掘調査報告書，城番塚遺跡発掘調査報告書，二部山遺跡発掘調査報告書
(財)山武郡市文化財センター	財団法人山武郡市文化財センター年報　No９，文化財かわらばん，文化財かわら版，設立10周年記念号，南麦台遺跡油井古塚原遺跡　丑子台1037地点，古内遺跡，田向城跡，上布田向遺跡Ⅱ
(財)市原市文化財センター	市原市文化財センター年報　昭和63年度・平成元年度，私たちの文化財21，市原市山田橋亥の海道貝塚，市原市安須古墳群，市原市姉崎東遺跡Ｂ地点，市原市待戸遺跡・待戸供養塚
市川市教育委員会	平成５年度　市川市内遺跡発掘調査報告
船橋市教育委員会	平成５年度　船橋市市内遺跡発掘調査報告書
野田市教育委員会	平成５年度　野田市内遺跡発掘調査報告
国立歴史民俗博物館	国立歴史民俗博物館研究年報　２（1993年度），国立歴史民俗博物館研究報告第56集・第58集～62集，陶磁器出土遺跡データベース，歴博65，歴博68
東邦考古学研究会	東邦考古　18
【東京都　13】	
東京都立埋蔵文化財調査センター	５万年をさかのぼる自然とヒトの歴史
宮内庁書陵部陵墓課	畝傍陵墓参考地石室内現況調査報告・平成四年度陵墓関係調査概要
港区立港郷土資料館	港区郷土資料館だより　第24号～26号，港区文化財調査集録　第２集，麻布市兵衛地区の武家屋敷跡遺跡，播磨龍野藩脇坂家屋敷跡遺跡，新橋停車場構内跡遺跡発掘調査報告書，西久保城山地区の武家屋敷跡遺跡，筑前福岡藩黒田家屋敷跡遺跡発掘調査報告書
目黒区美術館	色の博物史・赤－神秘の謎解き
【神奈川県　14】	
平塚市教育委員会	新町遺跡他発掘調査報告書，平塚市文化財調査報告書　第29集，宮ノ脇遺跡，諏訪前Ａ・道半地遺跡他，厚木道遺跡　第３地点
【富山県　16】	
富山県埋蔵文化財センター	吉倉Ｂ遺跡，古代の須恵器　新技術の伝来，小杉流通業務団地内遺跡群第12次発掘調査概要No15Ａ遺跡，富山県埋蔵文化財センター年報　平成５年度，埋文とやま　第44号～46号
(財)富山県文化振興財団	埋蔵文化財年報（５）　平成５年度，梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告（遺構編）
大門町教育委員会	串田新遺跡Ⅶ
富山県［立山博物館］	たてはく　第９・10号，研究紀要　Vol.１，年報　第３号
【石川県　17】	
石川県立埋蔵文化財センター	拓影　第44号
富来町教育委員会	山王丸山遺跡
金沢大学文学部考古学研究室	金沢大学考古学紀要　第21号
金沢大学資料館	金沢大学資料館だより　No６
全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会事務局	公立埋文協会報　第14号

【福井県　18】	
福井県立若狭歴史民俗資料館	若狭中核工業団地関係遺跡発掘調査報告書
【山梨県　19】	
山梨県埋蔵文化財センター	研究紀要　8～10，年報10　平成5年度，塩川遺跡，東山南（A）遺跡，中川田遺跡，東山北公園遺跡　第1次～第3次調査，大師東丹保遺跡，油田遺跡，向河原遺跡，新居道下遺跡，村前東A遺跡概報1，丘の公園第7遺跡
山梨県立考古博物館	山梨県立考古博物館だより　No30～32
【長野県　20】	
長野県立歴史館	長野県立歴史館だより　冬号Vol. 1
【岐阜県　21】	
(財)岐阜県文化財保護センター	きずな　第10・12号，尾崎遺跡，陰地遺跡，荒城神社遺跡，諏訪洞砦跡，阿弥陀洞遺跡，深作裏垣内遺跡
各務原市埋蔵文化財調査センター	かかみがはらの埋文　第2号，前洞遺跡A地区発掘調査報告書
【静岡県　22】	
(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	静岡県埋蔵文化財調査研究所年報　X
磐田市埋蔵文化財センター	御殿・二之宮遺跡　第8次発掘調査のあらまし，国分寺・国府台遺跡，七反田遺跡発掘調査報告書，匂坂中遺跡群発掘調査報告書，野際遺跡発掘調査報告書
【愛知県　23】	
(財)愛知県埋蔵文化財センター	年報　平成5年度，埋蔵文化財愛知　No39・40，朝日遺跡V，松河戸遺跡，室遺跡，清洲城下町遺跡III・外町遺跡，跡ノ口遺跡・一色長畑遺跡・船橋宮裏遺跡，堀之内花ノ木遺跡，清洲城下町遺跡IV，貴生町遺跡II・III，月縄手遺跡II，黒笹40・89号古窯跡・黒笹G2号古窯跡・立楠古窯跡
愛知県教育委員会	愛知県埋蔵文化財情報9　平成4年度
名古屋市見晴台考古資料館	伊勢山中学校遺跡　第5次調査の概要，旧紫川遺跡　第6次発掘調査報告書，見晴台遺跡，見晴台遺跡31次発掘調査の記録，見晴台遺跡　遺構編，見晴台教室'93，高蔵遺跡（花街地区）発掘調査報告書，高蔵遺跡　第5次調査の概要，志賀公園遺跡発掘調査の概要，東古渡町遺跡，特別展　名古屋の縄文時代　解説書，特別展　名古屋の縄文時代　資料集，名古屋市見晴台考古資料館　年報10・11，名古屋城三の丸遺跡第4・5次発掘調査　遺構編・遺物編，尾張元興寺跡発掘調査報告書
名古屋大学文学部考古学研究室	名古屋大学文学部研究論集119
【三重県　24】	
三重県埋蔵文化財センター	'93発掘三重，みえ　No13～15，一般国道23号中勢道路　埋蔵文化財発掘調査概報VI，研究紀要　第3号，三重県の祭祀遺跡　まつりのかたち　さまざま，発掘って何だろう？，埋蔵文化財発掘調査概報　IV，磐城山遺跡発掘調査報告，川南D遺跡・勝地中世墓群発掘調査報告，小屋城古墳群，伊勢寺廃寺・下川遺跡ほか，山城遺跡・北瀬古遺跡，松ノ木遺跡・森山東遺跡・太田遺跡発掘調査報告
鈴鹿市教育委員会	伊勢国分寺・国府跡，中ノ川流域の考古学，北ノ添遺跡発掘調査報告書，西ノ野遺跡発掘調査報告書
津市教育委員会	古代揚子江の至宝，上津部田城址（第3次）発掘調査報告
嬉野町教育委員会	天白遺跡範囲確認調査報告
上野市遺跡調査会	横枕遺跡発掘調査報告，上野新都市開発整備区域　埋蔵文化財発掘調査報告書第1分冊・第2分冊，森永エンゼルの森開発区域内埋蔵文化財分布調査報告書A工区・B工区，国史跡旧崇廣堂発掘調査報告，上野新都市開発整備区域　埋蔵文化財発掘調査報告書　第3分冊・第4分冊，堂垣内遺跡発掘調査報告
【滋賀県　25】	
滋賀県埋蔵文化財センター	滋賀埋文ニュース　No 169号～179号，井戸とその祭祀，水とマツリ　禊祓・滅罪
守山市立埋蔵文化財センター	守山市文化財調査報告書第39冊・52冊・53冊

大津市教育委員会	大谷遺跡発掘調査報告書，滋賀里遺跡発掘調査報告書
長浜市教育委員会	大塚遺跡，塚町遺跡Ⅵ・Ⅶ，堀部西遺跡，大戌亥・鴨田遺跡１・同２，大戌亥遺跡，大塚遺跡，川崎遺跡
琵琶湖博物館開設準備室	瓦BAN　号外，瓦BAN　第一号～六号，琵琶湖の歴史環境　その変動と生活
滋賀県立安土城考古博物館	おおてみち　第８号～10号，蔵考古展　考古資料からみた近江の歴史，紀要第２号，古代文化の交差点　文化は坂田郡を通った，残照　本能寺からの織田一族，織田信長と安土城，鉄砲のカラクリ　近世の技術革新，平成５年度年報
大津市歴史博物館	博物館だより　第18号～20号
(財)滋賀県文化財保護協会	滋賀文化財だより　No 194 ～ 204 号，国宝　御上神社本殿，淡海の密教法具，高田敬輔とその門人，坂本の町並み景観
	殿原廃寺（第４次），小谷遺跡（第４次），玉丘遺跡群Ⅱ，西在田地区遺跡群，三反田・石堂遺跡，山枝・なめら・別府中町遺跡
【京都府　26】	
(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	京都府埋蔵文化財情報　第53・54号
京都市埋蔵文化財調査センター	京都市内遺跡試掘調査概要，京都市内遺跡立会調査概要，鳥羽離宮跡発掘調査概要，平安京跡発掘調査概要　平安京跡発掘調査概要
(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	京都府埋蔵文化財情報　第51号・52号
京都市考古資料館	京都市考古資料館年報　平成元・２年度・同３・４年度，鳥羽離宮　殿・堂の基礎工事，考古資料のはなし，生活の中の木簡，中世・近世の平瓦製作技法，方後円墳を比較する，発掘成果をふりかえって　1991，新たにみつかった古墳時代の水田跡，太秦・嵯峨野の古道，京都でいちばん古い土器，遺物の復元　形をつくる，長岡京の町のようす　左京六条三坊三町の調査から，織田信長ゆかりの遺跡を訪ねて，栗栖野の窯跡から二彩陶器が・・・，小六条殿と街路のつけかえ，埋もれていた庭園　鳥羽離宮跡，御堂ヶ池２号墳は「消滅」したのか，都大路を歩く，遺物の復元　色をつける，発掘成果をふりかえって　1992，織部焼，下西代２号墳，庭園発掘　さまざまな園池，焼塩壺と花塩壺，長岡京の川原寺，岡崎グラウンドの「鵺塚」，考古資料館夏期教室，考古資料館周辺散策，古墳時代の大集落発見　垂水遺跡　化野（あだしの）の墳墓　蓋付蔵骨器，発掘成果をふりかえって　1993，木炭木槨墓を発見，竪穴住居跡の型をとる，平安京の設計，弓の用途，東西の市，大きな宝珠形のつまみがある陶片，鴻ろ館，太秦広隆寺の創建，平安宮
向日市文化資料館	向日市文化資料館報第９号　平成４年度，山背から山城へ　山背遷都へのみち，収蔵資料目録Ⅰ　考古資料１
【大阪府　27】	
(財)大阪文化財センター	研究紀要　Vol.１，原始・古代のコメ作り　農耕の技術とまつり，図録　農耕の技術とまつり，大阪文化財研究　20周年記念増刊号，大阪文化財研究　第６号，図録　大阪城跡の調査３
(財)大阪市文化財協会	米と食生活，魚を求めて
高槻市立埋蔵文化財調査センター	高槻市文化財年報　平成４年度，嶋上遺跡群18
(財)東大阪市文化財協会	若江遺跡第44次発掘調査報告，神並遺跡　XIII，西之辻遺跡第23次発掘調査報告，同第35次発掘調査報告，同第36次発掘調査報告，東大阪市下水道事業関係発掘調査概要報告　1992年度
(財)八尾市文化財調査研究会	平成５年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告，財団法人八尾市埋蔵文化財発掘調査報告，財団法人八尾市埋蔵文化財発掘調査報告　Ⅲ，財団法人八尾市文化財調査研究会報告　42・43，大石古墳
(財)大阪府埋蔵文化財協会	10年のあゆみ，池田寺遺跡Ⅳ，芝ノ垣外遺跡Ⅱ，上フジ遺跡Ⅲ・三田古墳，三ヶ山西遺跡Ⅱ，男里遺跡，野々井遺跡，野々井西遺跡・ON231 号窯跡，研究紀要２・３，泉州の遺跡展，下田遺跡発掘調査，粟生間谷遺跡発掘調査，東奈良遺跡発掘調査

(財)枚方市文化財研究調査会	ひらかた文化財だより　第19号～22号，研究紀要　第３集，枚方市文化財年報13（1991年度分）
堺市立埋蔵文化財センター	堺市文化財調査概要報告　第42冊～47冊
大阪府教育委員会	一須賀古墳群Ⅰ支群発掘調査概要
豊中市教育委員会	豊中市埋蔵文化財年報　Vol.１・Vol.２，豊中市埋蔵文化財発掘調査概要，縄文の狩人　森と海にささえられたゆたかな生活，たがやす人びと　とよなかの弥生ムラとコメづくり
枚方市教育委員	枚方市埋蔵文化財発掘調査概要　1993
貝塚市教育委員会	貝塚市郷土資料室事業報告，加治・神前・畠中遺跡発掘調査概要，木積観音寺跡発掘調査概要，貝塚市遺跡群発掘調査概要
泉佐野市教育委員会	茅渟の道　第３号，泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要　平成５年度，泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要　第11号，泉佐野の遺跡　原始・古代編，湊遺跡　90-４区の調査，貝田遺跡　92-１区の調査，南中安松遺跡，諸目遺跡　93-３区の調査，三軒屋遺跡　93-３区の調査
泉南市教育委員会	日本古代国家の成立を探る，泉南市遺跡群発掘調査報告書Ⅹ・Ⅺ
大阪府立弥生文化博物館	弥生倶楽部　Vol.５～Vol.７，弥生から古墳へ，海の道，陸の道，富士山を望む弥生の国々，サンゴ礁をわたる碧の風　南西諸島の中の弥生文化
大阪府立近つ飛鳥博物館	大阪府立近つ飛鳥博物館要覧，博物館だより　アスカディア・古墳の森　Vol.１，シルクロードのまもり　その埋もれた記録，モノクロームの仏たち　新納忠之介のコレクションから
大阪市立博物館	大阪市立博物館報　No33
吹田市立博物館	瓦　平安の都へ，博物館だより　No２・No３，吹田市文化財ニュース　No15，埋蔵文化財緊急発掘調査概要，埋蔵文化財調査報告書
八尾市立歴史民俗資料館	研究紀要　第５号
【兵庫県　28】	
兵庫県教育庁埋蔵文化財調査事務所	ひょうごの遺跡　第６号～17号
神戸市埋蔵文化財センター	古代人と動物
妙見山麓遺跡調査会	加古川流域の古代史，加美町遺跡地図，市原・熊野神社裏遺跡，灘・桜口遺跡，兵庫鉱業史の研究Ⅰ
兵庫県教育委員会	製銅遺跡Ⅰ・Ⅱ
神戸市教育委員会	高塚山古墳群発掘調査概要，出合遺跡　第27次発掘調査報告書，昭和63年度神戸市埋蔵文化財年報，垂水・日向遺跡，大開遺跡，平成３年度　神戸市埋蔵文化財年報，平成４年度　遺跡現地説明会資料
伊丹市教育委員会	国指定史跡有岡城跡　保存整備事業報告書，有岡城跡・伊丹郷町Ⅲ，伊丹市埋蔵文化財調査概要Ⅲ
姫路市教育委員会	特別史跡姫路城跡埋門石垣修理工事報告書
芦屋市教育委員会	芦屋市内遺跡発掘調査概要報告書
加西市教育委員会	小谷遺跡，野間遺跡，山枝・なめら・別府中町遺跡，小谷遺跡　発掘調査報告書
龍野市教育委員会	考古学からみた龍野，布勢駅家Ⅱ，長尾塔後遺跡，龍野市寄井遺跡，播磨国鵤荘現況調査報告Ⅴ
宝塚市教育委員会	宝塚の街道と歴史文化
尼崎市教育委員会	遺跡分布地図及び手引き，平成３年度　尼崎市埋蔵文化財年報
加東郡教育委員会	埋蔵文化財調査年報
神崎町教育委員会	中村出土銭
太子町教育委員会	太子町史　第三巻
神戸市立博物館	研究紀要　第９号・10号，神戸市立博物館年報　No９，博物館だよりNo48・No49
兵庫県立歴史博物館	館報　1993，兵庫歴博ニュース　No48
芦屋市立美術博物館	なりひら　第13号～第16号
播磨町郷土資料館	館報　Vol.５

龍野市立歴史文化資料館	安芸の文化財，揖保川流域の古代首長たち，龍野市立歴史文化資料館常設展示図録
兵庫埋蔵銭調査会	中世の出土銭　出土銭の調査と分類
【奈良県　29】	
奈良国立文化財研究所	文化財情報システム実施設計書（2）
奈良市埋蔵文化財調査センター	奈良市埋蔵文化財調査センター紀要　1993，奈良市埋蔵文化財調査概要報告書，平城京東市跡推定地の調査XII
桜井市立埋蔵文化財センター	三輪と出雲
大和高田市教育委員会	コンピラ山古墳第3次発掘調査報告書
田原本町教育委員会	唐古・鍵遺跡第52次発掘調査概報，田原本町埋蔵文化財調査年報4　1992・1993年度
奈良大学文化財学科考古学研究室	文化財学報　第十一集
天理大学文学部考古学研究室	高原と湖の遺跡　古代エン・ゲヴの発掘調査，奈良盆地の古環境と農耕
【和歌山県　30】	
(財)和歌山市文化体育振興事業団	平尾遺跡発掘調査概報，史跡和歌山城第2次発掘調査概要報告書，鳴神V遺跡発掘調査概要報告書，車駕之古址古墳範囲確認調査概報
【鳥取県　31】	
(財)鳥取県教育文化財団	鳥取埋文ニュース　No37～No40，尾高御建山遺跡・尾高古墳群，泉中峰・泉前田遺跡，南谷大山遺跡II・南谷29号墳
(財)鳥取市教育福祉振興会	紙子谷古墳群・宮長竹ヶ鼻遺跡，秋里遺跡発掘調査概要報告書，菖蒲遺跡，八坂118号墳発掘調査報告書，美和古墳群発掘調査報告書　平成4・5年度，六部山古墳群
北条町教育委員会	土下古墳群発掘調査報告書第4集　土下210・212号墳
東郷町教育委員会	川上73号・74号墳発掘調査報告書
【島根県　32】	
島根県埋蔵文化財調査センター	島根県埋蔵文化財調査センターニュース　8号～10号
安来市教育委員会	清水山古墳群発掘調査報告書，鉄からの知的冒険
島根県立八雲立つ風土記の丘資料館	八雲立つ風土記の丘　No 125 ～No 130
【岡山県　33】	
岡山県古代吉備文化財センター	所報吉備　第16号・第17号，大年古墳群ほか，百間川原尾島遺跡　3，山陽自動車道建設に伴う発掘調査　8・同9，中国横断自動車建設に伴う発掘調査　1，中井・南三反田遺跡（備前国府推定地），土師東遺跡・福里遺跡，大田茶屋遺跡　1
津山弥生の里文化財センター	津山弥生の里　第1号，別所谷遺跡，美作国府跡，大開古墳群・大開遺跡，井口車塚古墳，緑山北遺跡
岡山県教育委員会	岡山県埋蔵文化財報告　24
岡山市教育委員会	西祖山方前遺跡・西祖橋本（御休幼稚園）遺跡，足守庄（足守幼稚園）関連遺跡発掘調査報告
総社市教育委員会	総社市埋蔵文化財調査年報4（平成5年度）
久世町教育委員会	久世町の石造文化財
上斎原村教育委員会	恩原遺跡
岡山県立博物館	岡山県立博物館だより　43号，平安から鎌倉へ　武士政権誕生の時代
津山郷土博物館	博物館だより　No10～No12
(財)倉敷考古館	中国地方の刳抜式石棺
岡山県立吉備路郷土館	吉備路郷土館だより　No17
岡山大学埋蔵文化財調査研究センター	岡山大学構内遺跡調査研究年報11　1993年度，岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報　第11号・同第12号，津島岡大遺跡　4　第5次調査
岡山理科大学　蒜山研究所	蒜山研究所研究報告　第19号

就実女子大学吉備地方文化研究所	吉備地方文化研究　第６号
権現山51号墳刊行会	権現山51号墳
浦間茶臼山古墳発掘調査団	浦間茶臼山古墳
岡山理科大学　図書館	岡山理科大学紀要　第29号Ａ　自然科学，岡山理科大学紀要　第29号Ｂ　人文・社会科学
全史協中国地区協議会事務局	全史協中国地区協議会市町村要覧
岡山県遺跡保護調査団事務局	調査団ニュース　第７号
倉敷市史研究会	新修倉敷市史　第９巻・13巻，倉敷の歴史　第５号
高梁川流域連盟	高梁川　52
高梁川の水と緑を守る会	高梁川流域の自然　第11号
(財)岡山県市町村振興センター	岡山県文化財総覧
【広島県　34】	
(財)広島県埋蔵文化財調査センター	ひろしまの遺跡　第57号～60号，研究輯録　Ⅳ，年報　Ⅸ　平成４年度，東広島ニュータウン遺跡群Ⅲ，東広島ニュータウン遺跡群Ⅴ，西条第一土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告（Ⅱ），金売・陣開，大歳遺跡，入野中遺跡，宮風呂遺跡，日向遺跡，竜王堂遺跡，山崎遺跡，明官地東遺跡，川東大仙山第10・11号古墳，岡山Ａ地点遺跡，灰塚ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（Ⅰ），東広島ニュータウン遺跡群Ⅳ，山陽自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告（Ⅹ）・同（Ⅺ），東広島ニュータウン遺跡群Ⅱ
(財)広島市歴史科学教育事業団	はにわ　ハニワ　埴輪　古墳時代と国際交流，大陸の風とともに　～銅鐸交響曲～，平成５年度第１回考古学教室　感想文集，平成５年度第２回考古学教室感想文集，今市城跡発掘調査報告，下沖２号遺跡発掘調査報告，広島城県庁前地点発掘調査報告，牛田早稲田遺跡発掘調査報告，平尾遺跡発掘調査報告，有井城跡発掘調査報告，広島城外堀跡西白島交差点地点，古路・古道調査報告
広島県教育委員会	いぶき　No８・No９，冠遺跡群Ⅲ，広島県中世城館遺跡総合調査報告書第２集，広島県の埋蔵文化財　平成４年度事業の概要，郡山城跡　御里屋敷推定地試掘調査概要
東広島市教育委員会	史跡三ツ城古墳整備事業報告書，西条第一土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ，原１号遺跡発掘調査報告書
福山市教育委員会	市原遺跡発掘調査報告書
庄原市教育委員会	則清１・２号遺跡，堂迫尻遺跡・守屋谷遺跡
尾道市教育委員会	尾道遺跡　市街地発掘調査概要
東城町教育委員会	川東大仙山古墳群　第６号・第９号古墳発掘調査報告書
広島県立歴史民俗資料館	古墳と大陸文化，年報　第15号　平成５（1993）年度，歴風ニュース　第９号～第11号，ひろしまの縄文土器
広島県草戸千軒町遺跡調査研究所	草戸千軒町遺跡発掘調査報告Ⅱ
【山口県　35】	
下関市教育委員会	大判遺跡・埴生口遺跡
【徳島県　36】	
徳島市教育委員会	徳島市埋蔵文化財発掘調査概要４
【香川県　37】	
(財)香川県埋蔵文化財調査センター	空港跡地遺跡発掘調査概要，国道バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概要，四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　第十五冊～第十七冊，小山・南谷遺跡，正箱遺跡・薬王寺遺跡，多肥松林遺跡，金蔵寺下所遺跡・西碑殿遺跡，川津中塚遺跡
香川県教育委員会	旧練兵場遺跡，石田高校校庭内遺跡発掘調査報告書，埋蔵文化財試掘調査報告Ⅶ
高松市歴史資料館	鏡の美
【愛媛県　38】	
(財)松山市生涯学習振興財団	松山市埋蔵文化財調査年報　Ⅵ，古照遺跡　第７次調査，上野遺跡，大峰ヶ台

	丘陵の遺跡，東山古墳群　4・5次調査，北久米浄蓮寺遺跡　3次調査地，斎院の遺跡，来住・久米地区の遺跡Ⅱ，石井幼稚園遺跡・南中学校校内遺跡　第2次調査，桑原地区の遺跡Ⅱ
松山市教育委員会	葉佐池古墳　木棺がのこされた横穴式石室の調査
大西町教育委員会	妙見山古墳発掘調査概報Ⅰ・墳丘編，妙見山古墳発掘調査概報Ⅱ・埋葬施設編，妙見山古墳発掘調査概報Ⅲ・第7次調査
愛媛大学法文学部考古学研究室	江口貝塚Ⅱ　縄文後晩期編
【福岡県　40】	
福岡市教育委員会	福岡市埋蔵文化財年報　Vol.7，席田青木遺跡　1，席田遺跡群7　大谷遺跡第4次調査，麦野B遺跡Ⅱ，笹原遺跡Ⅰ，奈多砂丘B遺跡Ⅰ，中南部（3），板付周辺遺跡調査報告書（16）　F5i調査地点，五十川赤目遺跡，那珂遺跡9～12，比恵遺跡群（14），博多　41・42，中村町遺跡　1，吉塚本町遺跡，西新町遺跡　3，藤崎遺跡　9，有田・小田部　第19集・同20集，飯倉F遺跡1，山崎古墳群　第2次調査，東入部遺跡群　1・2・3，田村遺跡　Ⅸ　第8次・11次・13次調査報告，田村遺跡　X　第12次調査報告，脇山　Ⅵ，飯倉唐木遺跡，今宿遺跡，飯氏遺跡群　2
鞍手町教育委員会	八尋遺跡群
九州歴史資料館	九州歴史資料館年報　平成5年度
芦屋町歴史民俗資料館	山鹿田屋遺跡，山鹿貝塚・夏井ヶ浜貝塚収集資料　垂水康氏収集資料目録
九州大学埋蔵文化財調査室	九州大学埋蔵文化財調査報告　第三冊
【佐賀県　41】	
佐賀県立博物館	佐賀県立博物館・美術館報　No106～No108，調査研究書［第17集］・同［第18集］，年報　No24
【大分県　44】	
大分県教育委員会	上野第1遺跡・上野第2遺跡・手崎遺跡（2・3次），大分県埋蔵文化財年報2，府内城三ノ丸遺跡，府内城三ノ丸遺跡Ⅱ
佐伯市教育委員会	栂牟礼城跡関連遺跡発掘調査報告書
犬飼町教育委員会	下野遺跡
三光村教育委員会	三光地区遺跡群発掘調査概報Ⅲ，森山遺跡
【宮崎県　45】	
高岡町教育委員会	橋山第1遺跡C地区調査報告書，高岡町内遺跡発掘事前総合調査報告書，蕨野遺跡
【沖縄県　47】	
那覇市教育委員会	那覇市の文化財

付 編

埋蔵文化財センター情報誌

「ほ る ほ る」

倉敷埋蔵文化財センター情報誌
HORU-HORU
ほるほる
VOL. 2

－1号－
おひさしぶりです
おそくなってごめんなさい号

編集発行 倉敷埋蔵文化財センター
発行 1994年5月20日

倉敷埋蔵文化財センター 〒712 倉敷市福田町古新田 940 Tel 086-454-0600 Fax 086-454-0305

遺構にはどんなものがある？

たとえば今、洪水で砂がおしよせて村がひとつ埋まってしまったとします。そこを掘ったら何がみつかるでしょう。

砂をどければその下には、家などの建物が埋まっているでしょう。道もあるでしょうし用水路なども掘り出せるでしょう。田んぼも埋まっているかもしれません。

むかしの村が埋まったとしても同じです。

発掘調査をすると建物のあとや道、溝、水田のあとなどがでてきます。

建物の柱など木で作ったものは、たいていくさってなくなりますが、土台をつくるため地面を掘りこんだり、土を盛ったりしたものは残ります。柱をたてた穴も残ります。

こうした地面の形を変えてつくりだされた人間の生活の跡を「遺構」と呼びます。

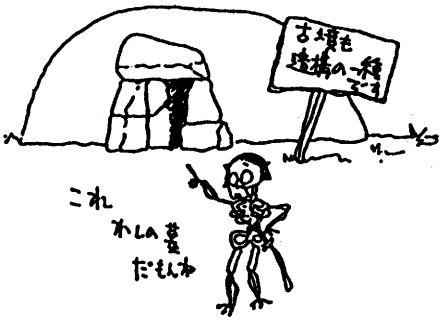
遺構は、埋まった部分の土と埋めた土の違いを探すことでみつけられます。

では、遺構にはどのようなものがあるでしょうか。

さきほど考えたむかしの村のあとは、遺構のあつまりです。村の中には建物、道、溝、水田のほかにも、生活に必要なものはたくさんありますね。

井戸、墓、ゴミすて場。こうしたものも、埋もれて遺構になります。

また、大きくて立派な昔の墓「古墳」や城の石垣なども遺構のひとつです。



アンケートは

楽しく 読ませていただいた 皆 の 第4回

去年の9月から12月にこたえていただいたアンケートの結果、みなさんの意見がどのようにかわってきたかを紹介します。

≡埋蔵文化財センターをなんで知りましたか≡

おとなの人も小学生の人も、前回（9月）には、「ライフパーク倉敷に来て」という人がほとんどでした。これは今回もかわりませんが、「学校」で教えてもらったという人や友だちにきいてという人がふえてきています。

みなさんが、埋蔵文化財センターを友だちに宣伝してくれてることがわかりました。

どうも、ありがとうございます。

≡埋蔵文化財センターでおもしろかったものは≡

小学生の人の人気は、やっぱり土器パズルがいちばん。これは、かわっていません。

そのほかの人気の順番もあまりかわっていません。

それ以外によかったこと、おもしろかったことでは、こんなものがありました。

☆小学生のひとたち

「本物（の土器）にさわれてよかった」 「たくさんの土器がよかった」

☆おとなのひとたち

「土器がさわれたこと」 「ふんいきがでていたこと」

土器をさわれることが、おとなのみなさんに好評なようです。

≡まだまだつづきます≡

みなさんにお願いしているアンケートの結果報告、次回もつづきをのせます。

いろいろとおもしろい意見や、感想があります。

お楽しみに。

また、これからもアンケートにご協力ください。

よろしくお願いします。

新連載　くらしきむかしむかし年表

その1　旧石器時代（岩宿時代）

くらしきの歴史をふりかえってみよう。

今回は、土器つくりがはじまる前の時代　旧石器時代　です。

400まん年前

最初の人類　アファル猿人があらわれる

（アフリカ　オルドヴァイ遺跡）

やく20まん年前

現在知られている　日本に人がいたという　もっとも古い証拠

（宮城県　座散乱木遺跡など）

瀬戸内海の下津井沖からは、このころの動物の化石がときおり引き上げられる。このころ瀬戸内海は陸地で、ナウマン象、野牛、ニホンムカシジカなどがすんでいた。

2まん年前

倉敷に人がいたという　もっとも古い証拠　～ナイフ形石器

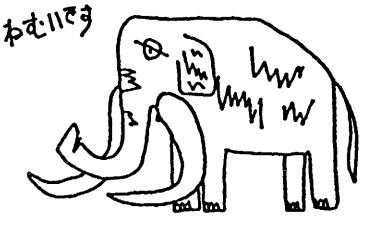
鷲羽山遺跡　[下津井]

王子ケ岳・浜遺跡 [唐琴]

竪場島遺跡　[唐琴]

辻堂遺跡　[連島]

菅生小学校裏山遺跡 [菅生]



このころのひとたちは、サヌカイトをうちわって石器をつくり、狩りをしてくらしていた。

1まん年前

土器つくりがはじまり、縄文時代がはじまる。

考古学入門講座はどうでした？

埋蔵文化財センターでは、昨年の11月に「考古学入門講座」をおこないました。

この講座で私たちは、一般の方を対象に、むつかしい考古学の言葉をなるべくつかわずに、まったく予備知識がなくても考古学の初歩を理解していただくことをめざしました。

それでは、とても遅くなりましたが、ここで3回の講座の様子と、参加した方々にお願いしたアンケートの結果を報告します。

第1回　11月10日（水）13：30～15：00　会場　ライフパーク倉敷第1会議室

「考古学の考え方」　講師　当館学芸員　中野倫太郎

考古学の研究方法とその考え方をゲームをまじえてお話しました。

考古学的な思考法を楽しんで学習していただくための模型、パズル等はだいたいにおいて好評だったようです。また、グループにわかれてのクイズでは、答えがすぐわかるくらい勉強しておられる方も結構いらっしゃいました。

第一回目ということもあってか、講師も皆さんも雰囲気が少しカタかったようです。

皆さんの笑顔が少なかった事を気にして、講師は後で「冗談がつまらなかった（ギャグをハズすといいますね）のだろうか」と見当違いの反省をしておりました。しかし実際は講師が皆さんの学習への意気込みに押され気味だったということのようです。

「今回の講座の参加者の皆さんの反応をもとに、よりわかりやすい考古学の解説をつくっていきます。」と、講師が言っておりました。

第2回　11月17日（水）13：30～15：00　会場　倉敷埋蔵文化財センター

「遺物の見方」　講師　当館学芸員　片岡弘至

遺跡から出土した遺物を実際に手に取り、実演・作業をまじえて短い時間でしたが様々な学習をしていただきました。

まず、土器の種類を見ていただきました。市内の遺跡から出土した様々な種類の土器を手に、文様・焼き方・製作方法の違い等を解説しました。石器の製作については、古代の製作技法に基づいて、受講者の皆さんの前で当センターの学芸員が石器の復元製作を行いました。石器の製作の様子を実際に見ることができたと非常に好評でした。次に、粘土で作った土器に文様つけを行いました。縄文土器にはより紐を使い縄目の文様、弥生土器には表面をヘラで磨いたり、木の小口（年輪のある部分）でハケメをつけたりしました。そして、縄文土器の文様を拓本にとりました。見ただけでは分かりにくかった土器の文様が拓本によってはっきり見えるようになり皆さん感動しておられました。

第３回　11月24日（水）13：30～15：00　会場　各所の遺跡

「遺跡の見方」　講師　当館学芸員　小野雅明

吉備路の古墳をめぐりながら、古墳の見方についてお話ししました。

風土記の丘県営駐車場に集合し、はじめに宿寺山古墳に行きました。この古墳は前方後円墳という形をしていて、５世紀後半（今から約１５００年前）につくられたものです。古墳の上に登ってその大きさや形を確認しながら、埋葬されている権力者の姿を思い描きました。それから、角力取山古墳に続いて吉備考古館に行き、岡山県内の貴重な遺物を見学したあと、今回訪れたなかで最大規模の作山古墳に行きました。岡山県内第２位、全長２８６ｍの前方後円墳はわたしたちを圧倒し、これだけの大きさの古墳を作らせた人の勢力、作った人の苦労などを想像してみました。作山古墳の上を縦走したあと、江崎古墳とこうもり塚古墳に行きました。どちらも前方後円古墳で、横穴式石室とよばれる埋葬する部屋があります。両方の石室の中に、井原市で産出する岩石で作った石棺が安置されているのは興味深いことでした。２時間足らずの見学でしたが、好天にも恵まれて楽しい晩秋の午後でした。

このような楽しい講座で、講師も楽しみながら皆さんと一緒に勉強させていただきました。

参加者の皆さんには、講座の終了後アンケートを書いていただきました。

こんな、ご意見、ご感想をいただいています。

１．感想

１回目　◎リラックスして勉強できました。

◎発掘調査の仕方を模型で説明したのが、はじめて見たので興味深かった。

２回目　◎石器の作り方を実際に見ることができて感動しました。

◎知識ではわかっていても実際にしたことのない作業ができてよかった。

３回目　◎本物の古墳の上で専門的な話がきけてよかった。

◎こうもり塚の中に入れてよかった。

２．意見

◎入門講座につづいて中級講座を期待します。

◎たとえば「銅鐸」、「鏡」など単一のテーマをほりさげた講座をしてほしい。

◎発掘調査の現場でいろいろと話を聞くような講座を希望。

◎もうすこし長く時間をとってほしい。

◎展示室の解説もしてほしかった。

☆受講生のみなさん、どうもお疲れさまでした。

また、次の企画でお会いしましょう。

開館記念行事　磬石　サヌカイト・講演会　コンサート

この企画は、倉敷埋蔵文化財センターの開館記念行事、また第３回「倉敷まちかどの彫刻展」の記念行事として、（財）倉敷文化振興財団、倉敷市立美術館と３機関の共同で行われました。

サヌカイトの石器が語る昔の生活を学び、その響きに耳をかたむけたみなさんは、この日、古代のイメージ世界に遊ばれたことと思います。

この企画をきっかけに、今まで歴史にあまり興味のなかった人達にも、文化財への関心を少しは持っていただけたのではないか、と思っています。

◎特別展

「サヌカイト－石の聲をきく－」

特別展会期　３月８日～27日　特別展会期中入館者数　2340名

：展示室の一角を展示がえして、当市の遺物を中心に、サヌカイトの石器を展示しました。コンサートで使用する石琴の展示もあわせて行いました。触れることのできる石琴が好評でした。

展示室には、竹田豊靖先生に野の花を生けていただきました。そこには、よそよりも少しはやく春が訪れたようでした。

◎講演会

「サヌカイト－石の聲をきく－」

◎石の音楽

「サヌカイト・コンサート」

◎講演会・コンサート　３月25日　会場　ライフパーク倉敷大ホール

講演会・コンサート入場者数　875人

講演会　18：00～19：00　講師　間壁忠彦

コンサート　14：00～15：30　19：00～20：30

楽器製作　宮脇磬子　演奏　臼杵美智代

浅川英雄

講演会のテーマもサヌカイト。

間壁先生は、誰にでもわかるようなやさしい語り口で、サヌカイトの別名「磬石」の由来である中国の楽器「磬」の話から、サヌカイトの石器のお話まで、いろいろな話をしてくださいました。

コンサートは昼と夜に一回ずつ行いました。

舞台上には、展示室と同様に竹田先生の生け花が春の風景を描いき出していました。その中に古代の工芸品を思わせる石琴が据えられ、素朴で粗削りな美しさを誇っています。シンセサイザーの機械的な姿は、現代のデジタルな知性を感じさせました。

一曲目の「初恋」から「暁」まで、素晴らしい音の世界が展開しました。

背景には、四季の花、雪景色・・・。

そんな懐かしい心象風景がスライドで映し出されました。

わたしたちが音の魔術に引き込まれ時の流れを忘れ、さまざまなイメージ（古代の瀬戸内、それとも弥生時代の夕映え？）を巡らせているうちに、ほんの一瞬のことのように、あっという間に演奏は終わってしまいました。

そして、アンコール。

「こんぴらふねふね」の楽しいメロディーが、ふたたび会場を沸かせました。

こうして、楽しい一時が過ぎました。

◎実演

サヌカイト製石器の製作実演

実演　　15：30～16：30　　講師　学芸員　藤原好二

コンサート昼の部終了後、埋蔵文化財センターで石器の製作実演が行われました。

順序よく石を割り、石器の形に仕上げていく様子を見たみなさんは、自分でも作ってみたくなったのではないでしょうか。

作る途中にできる石屑を持って帰った人達もたくさんいらしたようです。

●今回の催しでは、アンケートに対し皆さんからたくさんの回答をいただきました。
次のページからは、その集計結果をご紹介します。

埋蔵文化財センター開館記念行事

「磬石」アンケート集計結果

◎参加者の性別・年齢

昼（400名 回答 120名）

男			女		
	10才未満	3		10才未満	6
	10~ 20	5		10~ 20	24
	30~ 40	6		30~ 40	33
	50~ 60	9		50~ 60	28
	70才以上	3		70才以上	3
		26			94

夜（475名 回答 112名）

男			女		
	10才未満	0		10才未満	4
	10~ 20	9		10~ 20	20
	30~ 40	23		30~ 40	29
	50~ 60	6		50~ 60	14
	70才以上	4		70才以上	3
		42			70

★昼は主婦・こども・年配の方が多く、夜は仕事帰りの方が多かったようです。

◎どこから来られましたか

昼	市内	90	（倉敷	38	玉島	9	児島	13	水島	28）
	市外		岡山	11	金光	1	総社	2	浅口	1
			真備	3	都窪	1				
	県外		兵庫	2	京都	1	香川	4	福山	1
			愛媛	1	高知	1				
夜	市内	96	（倉敷	55	玉島	3	児島	14	水島	23）
	市外		岡山	6	灘崎	3	玉野	1	総社	1
			矢掛	1	都窪	1				

★倉敷地区・水島地区から参加してくださった方が多いようです。また、遠距離参加の方は昼に来てくださっています。

◎ライフパーク倉敷に来られたのは何回めですか

昼	はじめて	19	夜	はじめて	33
	2～3	34		2～3	35
	4～5	24		4～5	16
	それ以上	34		それ以上	35

★ライフパーク倉敷によく来てくださる常連さんが多いようです。

◎この企画を何で知られましたか

昼	広報	40	夜	広報	36
	新聞・雑誌	22		新聞・雑誌	13
	テレビ・ラジオ	0		テレビ・ラジオ	0
	ライフパークに来て	29		ライフパークに来て	23
	その他	6		その他	5
	家族	4		家族	3
	案内状	2		案内状	12
	学校	3		学校	2
	友人	14		友人	6
	倉敷市立美術館	2		公民館	5
	坂出市立美術館	2		市役所	1
	図書館	1		チラシ	3

★広報で見たという方が多かったようです。

◎満足していただけましたか

昼	たいへん満足	58	夜	たいへん満足	75
	満足	57		満足	29
	あまり満足しなかった	5		あまり満足しなかった	0
	満足しなかった	0		満足しなかった	1

★ほとんどの方に満足していただけたようです。

◎このような企画を今後も希望しますか

昼	希望する	114	夜	希望する	106
	どちらでもない	6		どちらでもない	3
	希望しない	0		希望しない	1

★ほとんどの方が今後も希望という嬉しいお答えです。がんばりたいと思います。

ご協力ありがとうございました

埋蔵文化財センター開館記念行事

「磐石」アンケート集計結果　その2

◎その他気がついた点があればお書き下さい。

⇨たくさんのご回答をいただきました。

その一部をご紹介します。

1．問題点

1. 企画の案内をわかりやすく、宣伝をもっとしてほしい。

～宣伝の仕方については、確かに一考を要するようです。

2. 演奏中の人の出入りが気になった。

～昼の部の後にこの指摘をいただいたので、夜の部では、演奏開始後の入場は曲と曲の間にお願いしました。

3. 子どもがうるさいので、入場者の年齢制限をしたらどうか。

～子どもたちにもサヌカイトの音を聞いてもらいたくて、昼にも演奏をお願いしたのです。ですから、今後も年齢制限をしようとは思っていません。（それに、3．感想の 1や10を読んでください。こんな感想だってあるのです。）

そのかわり、子ども達にも静かにきいてもらうよう、よい方法を考えます。

4. ライフパークは交通の便が悪い。

2．希望すること

1. 古い楽器とのジョイント・コンサートを希望します。

～いいアイデアですね。次回はそんなコンサートをしてみたいです。

2. 託児施設があれば、小さい子供さんを持つお母さんも安心して参加できると思います。

3. 仕事をしている身としては、土、日、祭日に開催してほしい。

～2.3.の希望は確かに一理ありますね。参考にさせていただきます。

4. できれば、サロン・コンサート風にお話しをしながら、ゆったりと演奏がきけたら、サヌカイトをより身近に感じられたと思います。

～素晴らしいアイデアです。次回の企画で考慮してみます。

5. 講座もあわせたイベントを実施してほしい。

～そうですね。そんなイベントをやってみたいです。

貴重なご意見ありがとうございました。

３．感想

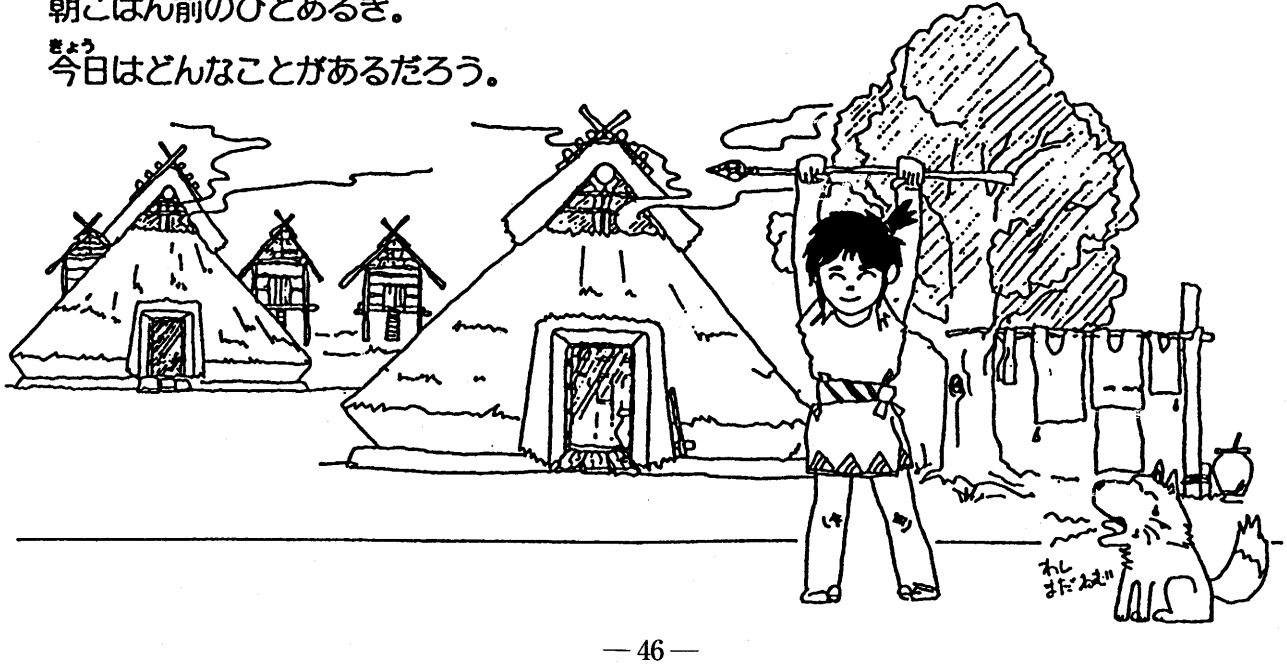
1. 石なので「ポンポン」「コンコン」なのかと思ってたけれど、「キンキン」「カンカン」みたいに高い音でした。小さな子でもわかるような音楽がたくさんあったので、とても楽しかったです。また、ききたいです。（10～20代　女性）
2. 舞台のセットもよかったです。（10～20代　女性ほか）
3. 間壁先生の講演が有意義でした。（50～60代　男性）
4. こんぴらふねふねナイス。（10～20代　女性）
5. 感動した！（30～40代　男性）
6. もっと素朴なルーツ・ミュージックを期待していたので、あまりおもしろくなかった。（30～40代　男性）
7. 舞台の菜の花は本物ですか。このような装飾のされたステージははじめてでおもしろかったです。（10～20代　女性）
8. サヌカイトを自分でもならしてみたい。（10～20代　女性ほか）
9. またこのようにユニークな企画を期待しています。（50～60代　女性）
10. 子供がいびきをかいてねてしまい、ご迷惑をおかけしました。でも、またきたいです。子供の心に美しい音色を残してやりたいから。（30～40代　女性）
11. 大きくなったら、わたしも演奏してみたい。（10～20代　女性）
12. スーパー満足。「暁」がもう一度聞きたい。（10～20代　男性）
13. シンセサイザーは「暁」ではよかったが、サヌカイトだけの演奏ももっと聞きたかった。（10～20代　男性）
14. 客席も静かでよかったです、コンサートはこうありたい。（30～40代　女性）
15. とてもすばらしかった、またききたいです。（10～20代　男性）
16. 古代につれ戻されたようでした。とてもすばらしく感動しました。
（50～60代　女性）
17. 安倍圭子マリンバ演奏希望。（50～60代　女性）
18. 澄んだ音色で雑音が出ないのがとても美しかった。（50～60代　女性）
19. 昔の名曲・童謡等、特に「こんぴらふねふね」がよかった。（70代　男性）
20. 司会の案内もよかった。（30～40代　男性）
21. 以前のプラネタリウム・コンサート、今回のサヌカイト・コンサート。子供たちと共に楽しませていただきました。
また、このような企画があればいいと思います。（30～40代　女性）
22. 仕事が終わってからでも来られるような時間が設定してあったのでよかった。この会場だと駐車場の心配もいらないし。はじめて聞くサヌカイトの音とても美しくて素敵でした。サヌカイトを一回でいいからたたいて鳴らしてみたかったです。
23. とてもいい音がするので、感動しました。（30～40代　女性）

新連載　むかしものがたり
弥生時代のある一日

みつけたもの なくしたもの

第1回　朝

さあ、朝だ。
ぼくは家からはいだした。
夜のうちにふってた雨はあがってた。
目に見えるものすべてが、あたらしくてきれいだ。
あおあおとしげる木と空のさかいめがくっきりとしてる。
吹いてくる風もすっきりとして気もちいい。
こんな朝がぼくは大好きだ。
みんなの家の屋根のけむり出しから、もくもくけむりが出てる。
ああ、朝のごはんの用意だな。
ぐうっとからだをのばす。
首の後ろあたりにたまったおもさがふきとんだ。
さぁ、森へいこう。
朝ごはん前のひとあるき。
今日はどんなことがあるだろう。



家と家のあいだを走る。

すれちがうひとたちに朝のあいさつ。

「おはよう！」

「ああ、おはよう」

広場をかけぬける。

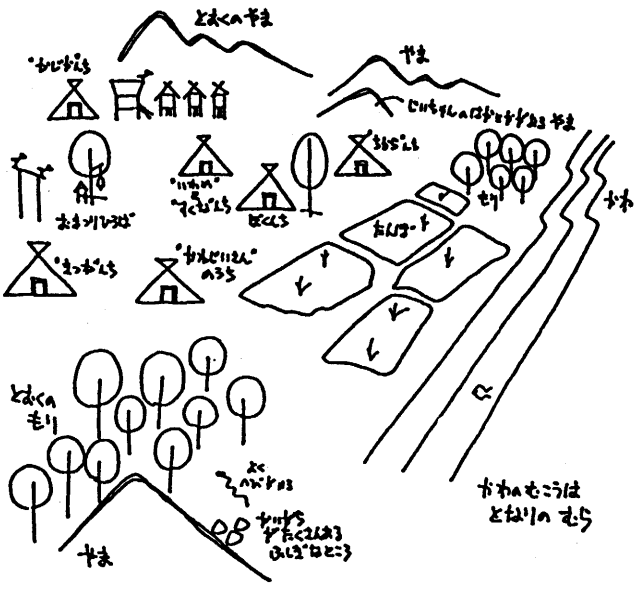
ともだちのかじかくんの家に行く。

かじかくんの家は米倉*2の前にある。

「おーい。かじかぁ！
森へ行こう！」

「おーしっ！」

かじかくんが家から飛び出してきた。



ぼくのむら

それからぼくたちは、ともだちの家をまわって、みんなをさそった。

「おーい、森へいくぞぉ！」

ぼくたちは、田んぼの畦を競争して駆けた。

誰がいちばん最初に森に着くか！？

<つづく>

言葉の説明

*1 けむり出し

弥生時代の人が、竪穴住居に住んでいたのは知っていますね。

火をたいたらどうなるでしょう？

けむりが出ますね。

竪穴住居の中は、けむかったでしょうか？

けむたくないよう、昔の人は工夫をしていたといいます。

屋根の横にけむりが逃げていく穴をあけていたのだそうです。

これがけむり出しです。

*2 米倉

弥生時代の人たちは、お米をつくっていました。

このころは、とれたお米を村で一緒にしまっていたと考えられています。

さし絵にあるような高床の倉庫にしまっていたようです。

おしえて！おしえて！

◎しつもん　竪穴住居はどうやって建てたの？

これは、みやけのりみさん、池田大樹くん、松浦美生さんほかのしつもんです。

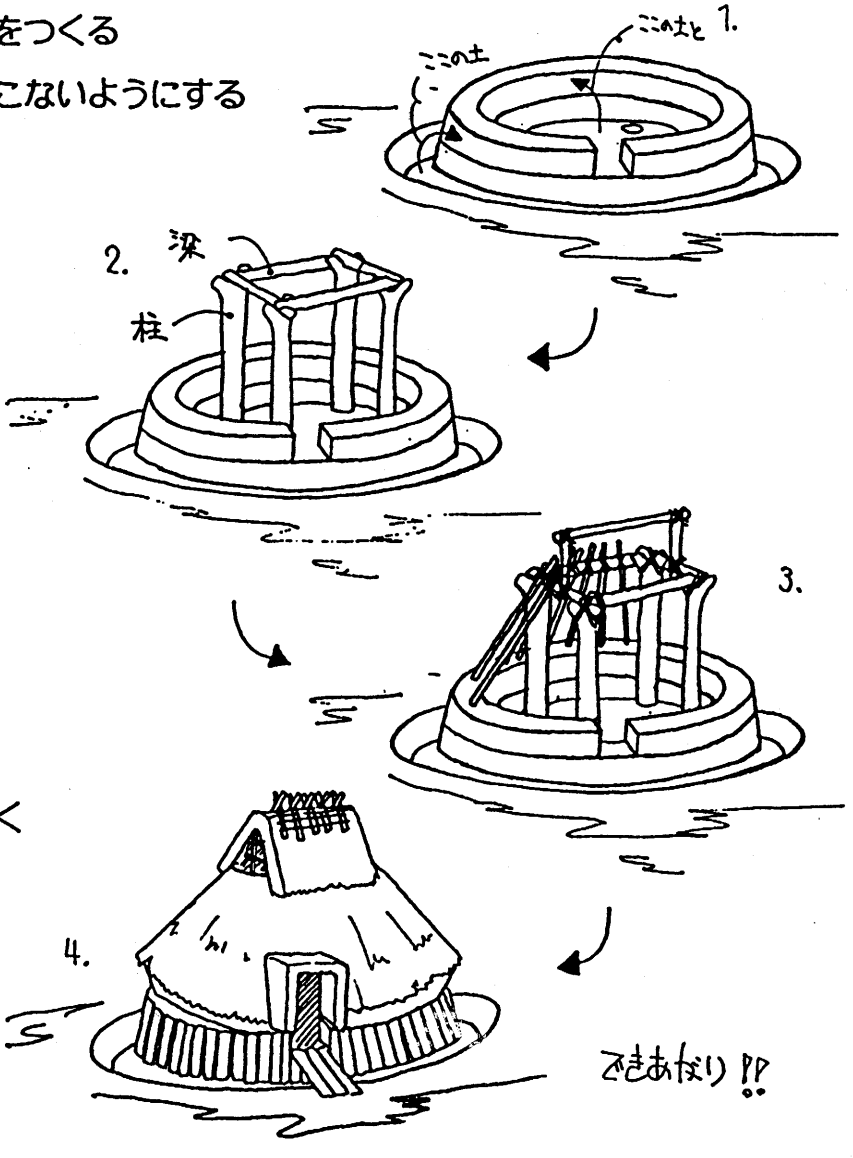
◎こたえ　下のイラストのように建てたと考えられています。

1．穴を掘り、出た土で土手をつくる
　まわりには溝をほり水がこないようにする

2．柱を立てて、梁をわたす

3．屋根の骨組みをつくる

4．茅やアシなどを屋根に葺く



どうです、むかしの家のたてかたがわかりましたか？

ほるほる君のもちものしらべ　第1回

ー考古学者の道具にはどんなものがある？ー

考古学者や学芸員は、発掘調査や研究にどんな道具をつかうのでしょう？
みなさんの疑問にお答えするために、「ほるほる君」のもちものを
そっとのぞいてみてみましょう。

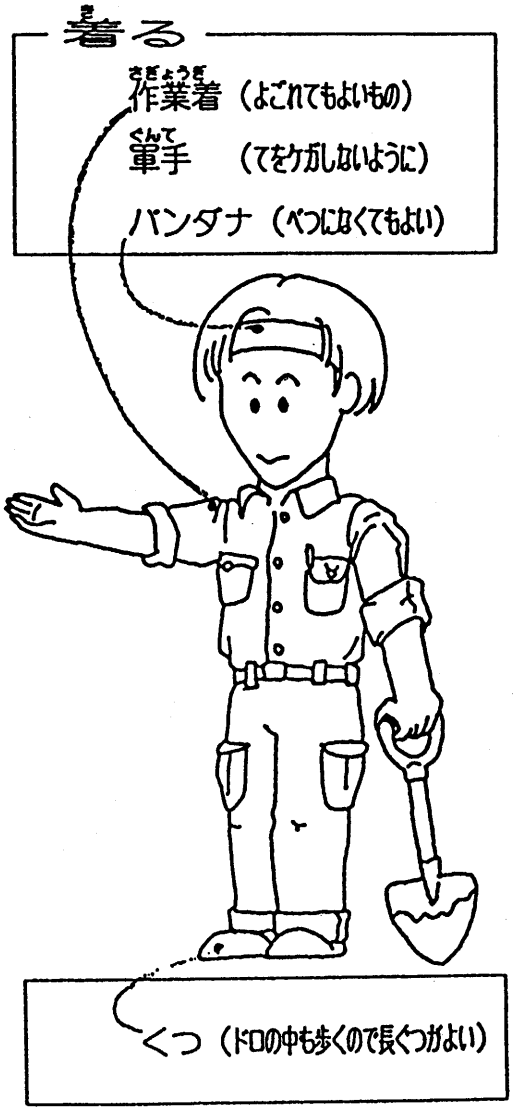
※　でも、考古学者のためだけの特別の
道具というのは、あまりありません。

◎ 次回からは、下に書いた発掘の作業の順に、どんな道具を使うかを説明します。

1掘る場所をきめる
　○くい（杭）を打つ
⇩
2掘る
　○いちどにたくさん掘る
⇩　○すこしづつ掘る

3記録する
　○写真をとる
⇩　○図面をとる
　○測量する

4持って帰る



ほるほるくいず

第3回

前回のこたえ　2番です。

と、いうことは・・・

T．B．（タイム・バイク）にのって

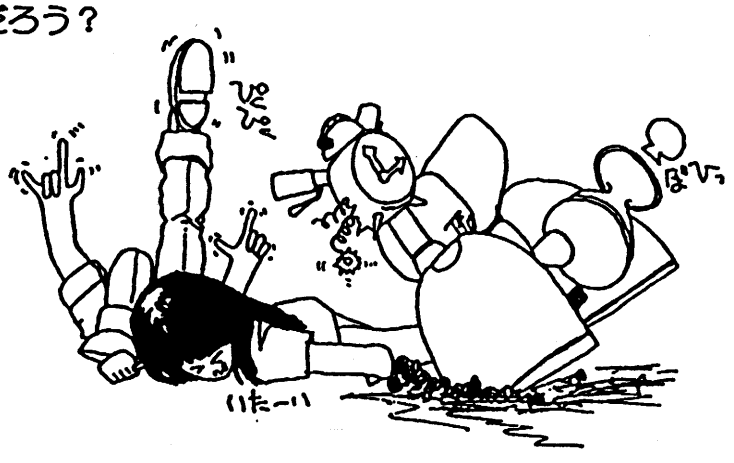
時間をさかのぼった

ほるほる君とこのみちゃん

さて、弥生時代についたかな？

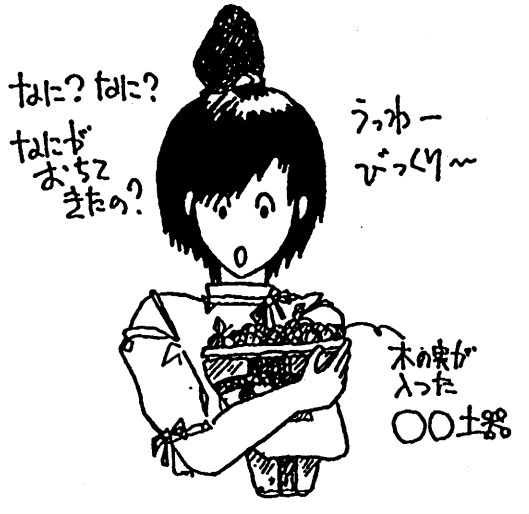
おや、おや、　着地に大失敗。

さて、ここはいつの時代だろう？



むこうからおねえさんがやって来た。

持ってる土器には、縄目の模様がついている。



と、いうことは・・・（さて、今回の問題です）

この土器は○○土器で、この時代は○○時代だ。（○○の中をうめてください）

連載１回　みんなのちからで

地面の下の宝を守ろう

みんなにもできることがある？

◎地中に埋まっている宝物といったら、みんなは「埋蔵金」とか「小判」とかを想像するだろう。

でも、そんなお金もうけになるようなものだけが宝物じゃないんだ。

むかしの人がすてたゴミだって、たてもののあとだって、お墓や人骨だって、大切な宝物なんだ。こういったものを、埋蔵文化財っていうんだ。

そういったものをしらべると昔のくらしのようすや、昔の人のものの考えかたなんかがわかってくる。それは、お金では買えない大切な宝物だ。そんなことを知ることで、むかしの良かったこと悪かったことがわかってくる。そんな知識をもとに、今のくらしを考えなおしたり、良くしていくことができるんだ。

だから、むかしの人がのこした埋蔵文化財を守り、未来に伝えていかないといけない。

埋蔵文化財を守るために、みんなにもできることがあるだろうか？

できることはたくさんある。

これからつづけて「ほるほる」にのせるこのコーナーで、みんなにもできる埋蔵文化財を守るための方法をおしえてあげるよ。

とは、いってもかたくるしく考えないでいいんだ。まず、最初は読んでみてほしい。それからこのページに落書きをしたっていいし、書いてあったことをちょっとおぼえておいてくれるだけでもいいんだ。

で、まず最初の方法は？　⇨ 知ること。

いいことも、わるいことも、それを知ってなければできない。

でも、勉強はしたくないって？

そんな君のために、このページをつくったんだ。

気楽に読んで、ちょっとおぼえておいてくれたらうれしい。

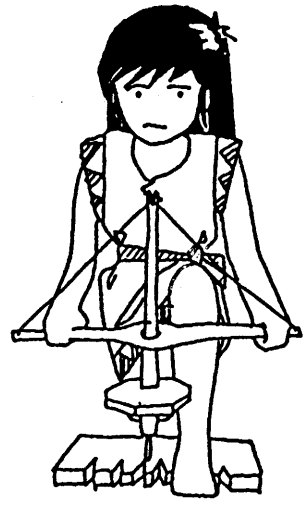
まずこのことを知ってほしい。

☆地面の下の宝物＝「埋蔵文化財」は いちどこわすと
もうもとには、もどらない。

道路や建物の工事なんかで、昔の人の住んでたところ（遺跡）やお墓（古墳）が壊れたら、それっきりだ。

みんなの家のそばに遺跡はないか、そこで工事をしてないか、調べてみるのもいいだろう。（じゃあ次回は、どうすれば遺跡のある場所を知ることができるかを教えよう。）

おしらせのコーナー



☆今年もやります！

夏休み親子考古学教室

自分でつくった火おこし道具（まいぎり）で火をおこし、土器でご飯やみそ汁を炊いてみましょう。

●対象／小学校高学年（保護者同伴・両日とも参加可能な方）
●定員／30人
●日程　7月末日（未定・きまりしだいおしらせします）
　1日目／　13:00 ～16:00　　ライフパーク倉敷
　2日目／　11:00 ～14:30　　少年自然の家
　（両日とも現地集合・現地解散）
●受講料／一組　400円（予定）
●材料費／一組　1000円程度（予定）

☆特別イベント

不思議楽器を鳴らしてみよう

古代の楽器や民族楽器・サヌカイトの石琴など、不思議な楽器をさわってみよう。

☆さわれる楽器／土笛、古代琴、うぐいす笛、サヌカイトの石琴、ムックリなど。
●対　象／当日自由参加
●開催日／8月21日（ライフパークの集い開催中）　13:00 ～15:00
●会　場／倉敷埋蔵文化財センター
◎当日には、3月25日に行われた「サヌカイト・コンサート」の模様のVTR放映もいたします。

□「ほるほる」はまだまだ出ます。□

ずいぶん長い間、でなかったので、「廃刊？」、「まだでないの？」と質問してくださる方もありました。ご心配をおかけしました。

これからも、不定期刊行でしょうが、まだまだ出し続けます。

今年は5号か6号までいけたらいいなぁ。

倉敷埋蔵文化財センター情報誌

HORU-HORU ほるほる

VOL. 2

－2号－
おこたえ！おこたえ！
なんだもんね号

編集発行 倉敷埋蔵文化財センター
発行 1994年9月25日

倉敷埋蔵文化財センター 〒712 倉敷市福田町古新田 940 Tel 086-454-0600 Fax 086-454-0305

今回の「ほるほる」は、みんなからもらったしつもんにおこたえする

おしえて！おしえて！特集号です。

しつもん その1

お名前 大森のぞみ

質問 なぜこんなのができたの？

こたえ

「こんなの」というのは、埋蔵文化財センターのことだとおもうんだけど。

どうかな？

では、埋蔵文化財センターができたわけをおしえてあげよう。

ここでは、倉敷市にある「遺跡」をしらべたり、まもったりしています。

遺跡というのは、むかしの人たちがくらしていたあとです。遺跡は土の下にうまっています。掘ると土器などがみつかります。

遺跡をしらべると、むかしのことがわかります。むかしのことがわかると、むかしの生活と今の生活をくらべることができます。そうすると、今のよいところ今の悪いところがわかり、今の悪いところをなおして、よいところをもっとよくするために考えることができます。

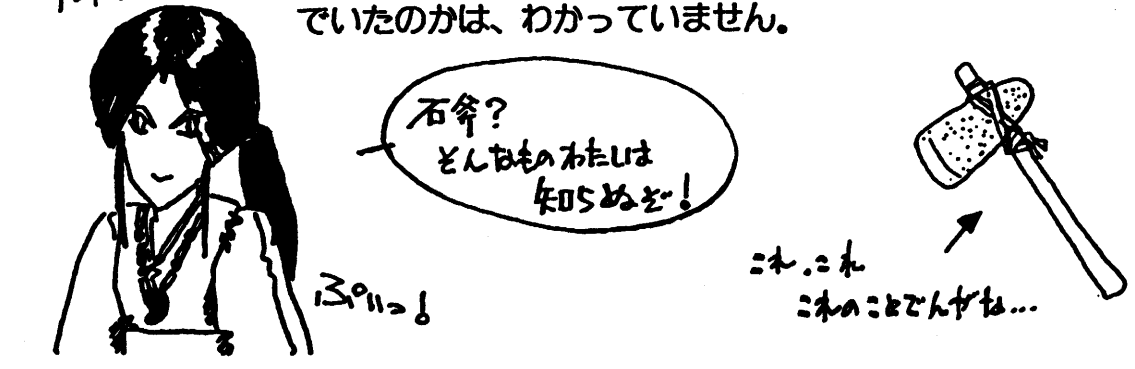
でも、遺跡をこわしてしまっては、むかしのことはわからなくなってしまいます。だから、遺跡をこわさないようにして、ちゃんとしらべるようにしないといけません。

その仕事をするために、このセンターはつくられたのです。

おしえて！おしえて！

しつもん　その2　　だれが石器の名前をつけたのですか。
もしかして卑弥呼ですかっ！！　　（奥田民子さん）

こたえ　　いいえ、ちがいますっ！！
石器の名前、たとえば「石斧」とか「石包丁」というのは、考古学者がつけた名前です。
だから、縄文時代や弥生時代の人が、それらの石器をどう呼んでいたのかは、わかっていません。



しつもん　その3　　昔の人の家にあった食べ物以外、昔の人に食べるものはあったのですか？　　（前田えりなさん）

こたえ　　ありました。それも、たくさん。
たとえば、弥生時代には
コメ、アワ、ヒエといった穀物。
ユリ根、ヤマイモ、ヤマブドウ、ウリなどの植物。
クリ、クルミ、トチなどのいろんな木の実。
イノシシ，シカなどの動物。
アユ、ヤマメなどの魚。
タコ（タコつぼでつかまえてました）。
ハイガイ、カキ、シジミ、タニシなどの貝。
など、いろいろなものを食べていました。

しつもん　その4　　くびかざりとかは、全部自分でつくったりしたんですか？

（大塚真由美さん）

こたえ　　時代と材料によって違います。

旧石器時代や縄文時代のアクセサリーで、土や骨でつくったものは、つくるのはそんなにむつかしくないです。

だから、自分でつくっていただろうとかんがえられています。

でも、弥生時代や古墳時代の宝石（ヒスイなど）やガラスでつくったアクセサリーは、たくさん時間をかけてみがいたり、高い温度の火をつかったりしないとつくれません。それはとてもたいへんなしごとです。

だから、技術をもった人だけがつくっていただろうと考えられています。

しつもん　その5　　昔の人は、災害なんかがおきた時、どんなふうにしてふせいでいたんですか？！　（吉村めぐみさん）

こたえ　　縄文時代や弥生時代の人たちには、災害はふせぎようがなかった、というのが正解でしょう。

洪水　→　流されそうになったらにげる。

地震　→　家がたおれそうなら、林などににげる。

火事　→　にげる。もえてる家は、となりにもえひろがらないようにたおす。

これぐらいしかなかったでしょうねぇ。

でも、昔のひとたちがみんなでいろいろな知恵をだし、苦労をしてきたおかげで、少しずつ災害をふせぐことができるようになったのです。

しつもん　その6　考古学者になるには、どんな勉強をすればいいのですか！？

（渡辺奈穂子さん）

こたえ　まず、小・中・高の学校の授業で習うことは全部必要です。しっかり全科目勉強してください。

たとえば、数学の三角関数だって遺跡の測量をするのに必要です。貝塚の貝をみわけるのには、生物の知識が必要です。工作の技術も、土器を復元したりするのに役立ちます。なにひとつ無駄になる勉強はありません。

それと・・・

野山で遊んで、この世界を思いっきり楽しんでください。

今の季節には、どんな花が咲くのか？

冬においしい食べ物は何か？

動物の足跡の形は？

魚のとりかたは？

綺麗な石や、かたい石のある場所は？

一年中で川の水が一番すくない季節は？

そうした身のまわりのささいなことに、（勉強するのではなくて）気づいてください。

あなたがこれから研究する昔の人たちは、そんなこともよく知っていたはずです。ですから、彼らを知るためには、そうしたことも知っているとよいはずです。

それから、体もきたえましょう。

発掘はたいへんな力仕事です。

そして、大学では文学部にある考古学の研究室へはいってください。大学で勉強するときには、考古学以外の科目もなるべく広く、しっかりと勉強してください。これは、あとで絶対に役に立ちます！

・・・でも。へへへ・・・

学芸員でも、これだけ全部知ってるかどうか・・・（笑）

私たちも、まだまだ勉強している途中です。

私たちも、まだまだ勉強をつづけます。

考古学者になりたいみんなも、がんばろう！！

しつもん　その7　古代の人たちの交通手段を教えてください。

（池田大樹くん）

こたえ

縄文時代　陸　あるく！　どんどんあるく

海　まるき舟

空　とべない

弥生時代　陸　あるく！

海　船

空　とべない

古墳時代　陸　あるく！　それと、馬にのりだしました

海　船

空　とべない

道路は、みんなが歩くところが自然に道路になったそうです。

また、日本では今から１２００年くらいむかしに、きちんと整備した道路が、はじめて国によってつくられたと考えられています。こうした道路を「官道」といいます。

しつもん　その8　古代人が石器や土器を作ったのは、日本だけなんですか？

（ｼﾝ=ﾗｷ=ｾｲ=ﾃ=ﾓｸ=ﾚﾝさん）

こたえ　そんなことはありません。

世界中の人たちが石器や土器を作っていました。

でも、石器のつくりかたを知らない古代人は、すくなかったけど、土器のつくりかたを知らない古代人はけっこういました。

しつもん　その9　石はどうやってとんがらせていたんですか？

（なかのまゆさん）

こたえ　わったときのわれくちがとんがる石は、われくちをそのままつかいました。

わってつくった石器を「打製石器」といいます。

また、べつの石とこすりあわせて、みがいてとんがらせるものもあります。

みがいてつくった石器を「磨製石器」といいます。

しつもん　その10　昔はどうやって話していたんですか。言葉があったんですか。

（浅野隆文くん）

こたえ　きっと旧石器時代（いまから20000年以上むかし）のひとだって言葉を使って話していたんじゃないかな。

「ぞうがにげたぞぉ。ばおーん！」？？

でも、今の言葉とはちょっとちがった言葉だったかもしれません。

言葉は、土器や石器とちがってあとがのこらないのでくわしいことはわかりません。

しつもん　その11　お金は、何のためにうまれたのか？

（枝木赳夫くん）

こたえ　いろいろな説があります。

たとえば、こんな説。

お金が無かったころは、物と物を交換していました。だけど、どれとどれなら交換しても、どちらも損をしたと思わないですむか、という問題がありました。だから、物そのもののかわりに価値の基準になるものをつくって、それで交換が簡単にできるようにしたのだ、という人がいます。

まだまだ、いろんな考え方があるので、大きくなったら経済学という学問を勉強してみてください。

しつもん　その12　（むかしの）服のつくりかたを教えてください。

（岡崎正広くん）

まず、糸は紡錘具という道具でつむぎます。

紡錘具は竪穴住居の右端のほうにおいてます。わかるかな。

で、下の図１のような道具で布をおります。

そして、服は下の図２のようにつくります。

図1

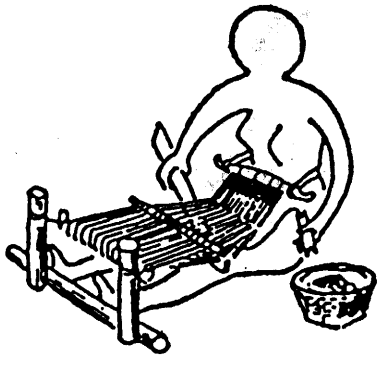
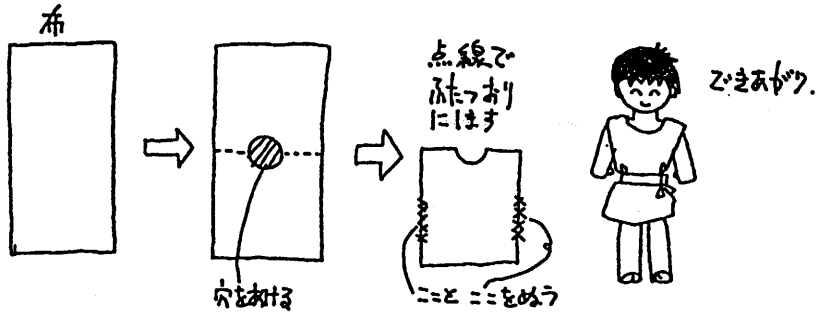


図2



しつもん　その13　土器のはへんがはっけんされると、そのちかくにほかのはへんが見つかることがありますか。　（庵谷けいすけくん）

こたえ　あります。

でも、かならずあるとはかぎりません。

もってかえった土器をくっつけていると、おしいところで完成品にならないこともよくあります。

これは、まったく「運」の問題ですね。

また、はへんが同じ村のなかでもはなれた場所まで移動していることもあります。

だから、土器をくっつけるのは、むつかしいのです。

しつもん　その14　昔、家庭でよくつかっていたものはなんですか？

（藤原雅江さん）

こたえ　昔、よくつかっていたもので、くさってなくなってしまわないものは発掘調査でほりだされます。

それは、土器です。

土器は、ものをしまっておいたり、にたきしたり、食器に使ったりと生活にとても必要なものですから、たくさんつくられました。

土器のほかにも、木などでつくられたため、くさってなくなってしまい、ほんとはたくさんつくられて使われていたけれども、今ではわからなくなってしまった生活道具があったかもしれません。

しつもん　その15　（竪穴住居は）どうして屋根のほうが大きいんですか？

（岡部ユウコさん）

こたえ　屋根が部屋より小さかったら、雨が部屋に入ってしまうじゃないですか。びちゃびちゃ。

質問してくれたみなさん、このようなこたえでよろしいでしょうか？

まだまだ、みなさんからいただいた質問はたくさんあります。

今回、こたえられなかった質問や、これから書いてくれる質問には、これからも、なるべくたくさんこたえていくようにしたいと思います。

でも、「人間はなぜうまれたの？」とか、「なんでこの宇宙があるの？」といった質問は、とてもむつかしくてこたえようがありません。また、こうした質問には、これが正しいというこたえはないし、こたえを知っている人もいないのです。

このような質問をい書いてくれた人、こたえられなくてごめんなさい。

「おしえて！おしえて！」のコーナーは、これからもずっと続けていきます。

これからもいろいろな質問を書いてください。では、では。また、次回。

ほるほる君のもちものしらべ　第2回

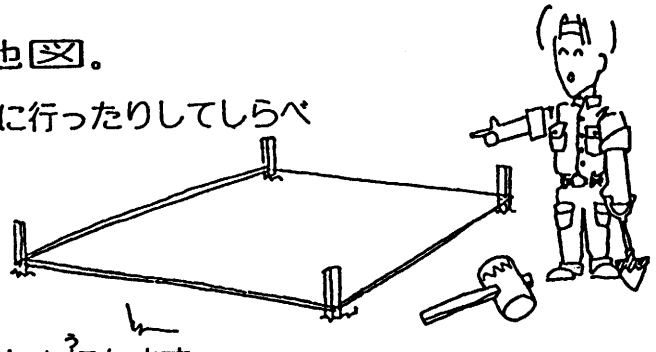
－考古学者の道具にはどんなものがある？－

考古学者や学芸員は、発掘調査や研究にどんな道具をつかうのでしょう？
みなさんの疑問にお答えするために、「ほるほる君」のもちものを
そっとのぞいてみてみましょう。

今回は
1掘る場所をきめる　のに必要なものです。

埋蔵文化財センターの発掘調査は、工事でこわされる遺跡をしらべて記録するためにおこなわれるのがほとんどです。だから、どこを掘るかは、工事の場所によってきまります。

そして、最初に「ためし掘り」をします。
「ためし掘り」の結果をもとに、どれだけのひろさをしらべるかを決めて
その範囲をはっきりとさせます。
そのために必要な道具は。



○場所をしらべたり記録したりする地図。
どこを掘るかを、地図や実際の場所に行ったりしてしらべ
みんなで相談して決めます。

○掘るところをあらわす杭など
掘る場所を決めたら、その場所に杭を打ちます。
杭を打つのには、木槌（←でっかくておもいぞ）がいります。
杭を打った場所をはっきりさせるために、杭と杭の間に
目印のロープをはります。

さて、次回からは地面を掘ります。掘るときには、どんな道具がいるのかな？

みんなびっくり古代人！

夏休み親子考古学教室体験記

平成６年７月28・29日の２日間、ぼくらは変わった体験をしたんだ。なんと、古代人になちゃった！

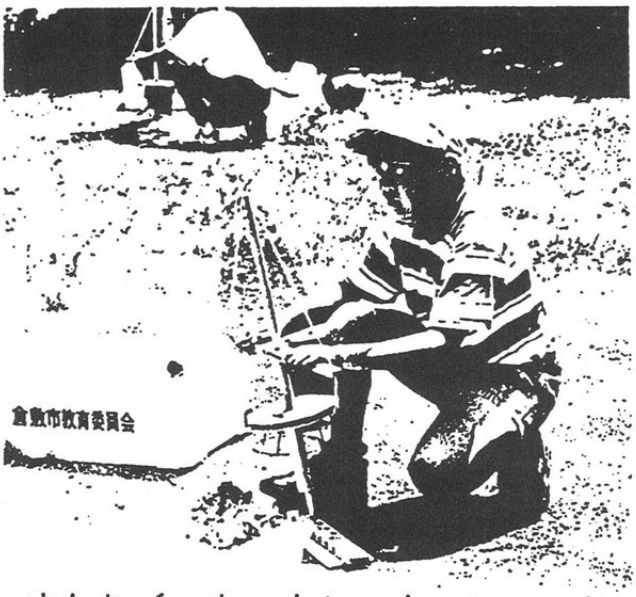
今年で第２回目というこの教室には13組34名の親子のみなさんが参加しました。ここではむかしの火おこしの道具「舞いぎり」を作って、それでじっさいに火をおこして自分たちでごはんをたいてみたんだ。それでは、その時のようすを参加できなかったみんなのためにお話するね。

１日目は、「舞いぎり」づくりをしたんだ。その前に埋蔵文化財センターの見学をして、発掘してみつかったいろいろなものやセンターの中の部屋のすみからすみまで見学しました。いろんな道具や機械を使ってむかしの土器や道具をげんざいによびもどしているんだなって初めて知りました。

さて、いよいよおまちかねの「舞いぎり」作り。最初に火おこしの方法を見せてもらったんだ。かんたんだけど力がいる方法からべんりな道具を使って楽な方法にかわっていったんだな。今では、マッチやライターで火はすぐつくけど、むかしの人は苦労してたみたい。木と木をこすり合わせて火がつくって不思議だな。

じゃあぼくらもがんばって「舞いぎり」を作ろう。使いなれないのこぎりやナイフに最初はとまどったけど、だんだんなれてうまく使えだしたよ。ぼくたちよりもお母さんたちが熱中しちゃったみたい。おかげで全員うまく作れました。さっそく火をつけてみたけどこれが意外とコツがいるんだな。はずみ車をとめないようにビュンビュン元気に回してやると「わっ！火がついた」。

２日目は、さあお待ちかね土器でご飯をたくぞぉ。まず、びゅんびゅん「舞いぎり」で火をつけて、シャカシャカお米を洗って、準備ばんたん！たき火が大きくなったころに土器を火の中に入れました。ほんとに土器でご飯がたけるの？だいじょうぶ、だいじょうぶと言ってるみたいにしばらくすると土器がぐつぐつふきこぼれてきたんだ。そうしているうちに、石のナイフでトントンと肉や野菜を切ってみそ汁の準備にとりかかったんだ。でもね、火の勢いのちょうせつがちょっと難しかったかな。



まもなく、あっちこっちでいいにおいがしてきたよ。この日はとっても暑かったけど、ご飯のためならパワーアップ！暑さで少しバテてきたけどもうすぐご飯が食べられるからがんばらなくちゃ。ふきこぼれがおさまり、むらしてやるとできあがり。早くたべたいな。こぼさないように、そろそろとご飯とみそ汁をはこんで、お母さんについでもらったんだ。たべたい！たべたい！

やっとお待ちかね…

「いただきます」

ぱくっ！

｀うまいんだな、これが´

赤米でほんのり色づいたご飯と具がたっぷりのおみそ汁、そしてホイル焼き。わーいごちそうだ。しかも、全部自分でつくったんだぞ。だから味もいいのはあたりまえ。

わずか２日間の考古学教室だったけど、古代人体験ができたんだ。むかしの人って｀おっさるー・ウキッ！´てみたいな人かと思ってたけど、ほんとはいろんな道具を使い、いろんなものも作ってたんだな。ちょっぴりくろうしたけど、むかしのくらしの一部がわかってとても楽しい２日間でした。

ドンドン　ポコポコ　ブォー
不思議楽器を鳴らしてみよう

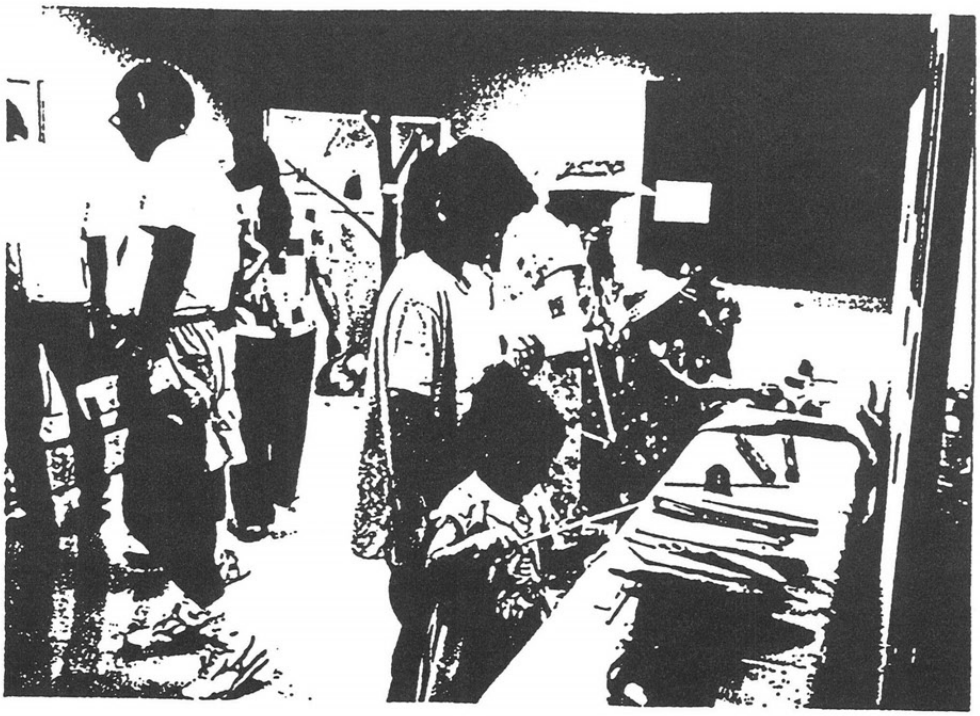
平成６年８月21日ライフパーク倉敷では、第２回目のライフパークの集いが行われました。倉敷埋蔵文化財センターは、今回おもしろい展示を企画しました。むかしの楽器を復元したり、民族楽器を展示したり、新たに楽器を作ったりしました。

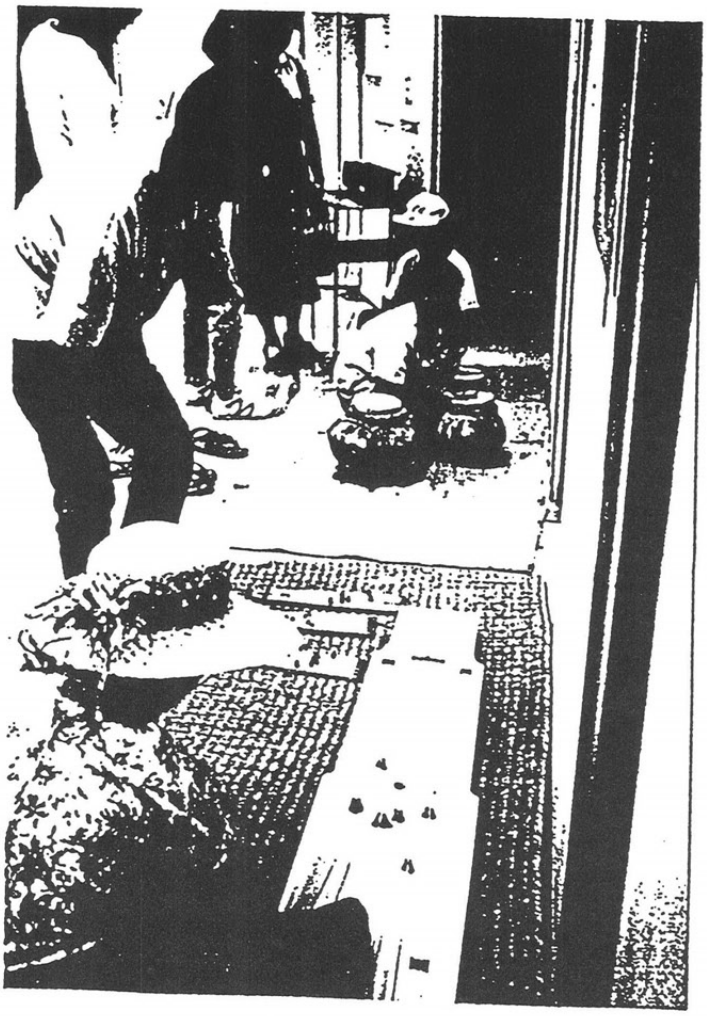
では、当日のようすを｀ほるほる君´といっしょにちょっとのぞいてみましょう。

会場に入ると、ドンドン・ポコポコ・ブォーといった子供たちが鳴らす楽器の音が聞こえてきたよ。今まで考えてもみなかったものまでも楽器になちゃってるんだ。たとえば…石琴…石もたたけば音がするんだよ。どんな石でもというわけにはいかないけど、四国の香川県でとれるサヌカイトという石はたたくと鉄琴のようなカンカンというすきとおった音がでるんだ。この石をうまく組み合わせるとドレミと音階がつくれるよ。おっどろいたな。ビニールの水道管だって楽器になちゃうんだ。たたくとポコポコなるし、吹いてみるとブォーって不思議な音がするんだよ。おもしろいな。

つまり、音がでるものは何でも楽器になるんだね。紙でも、木でも、金属も、ガラスも空気をブルルルルってふるわせたら音になるんだ。これじゃあぼくたちの身の回りのすべてが楽器になちゃう！

むかしの人達も生活のなかで音の遊びをたのしんでいたんだな。しかも、自然の材料を使っていろんな音を作りだしていたみたい。





カラオケ!

ほるほるくいず

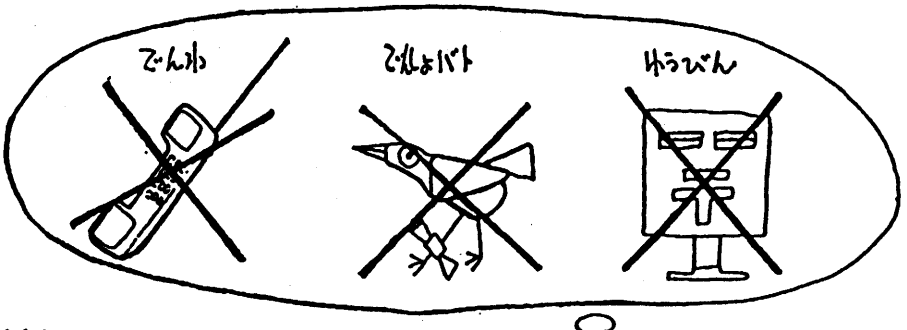
前回のこたえは、　縄文　です。

ほるほる君とこのみちゃんは
これからどうするのだろう？
（じつはこのさきどうなるかは
作者も考えてないんだよねぇ・・・）

第４回

さあ、こまった　どうしよう。
むかしへもどりすぎちゃった。

Ｔ．Ｂ．もこわれちゃったし・・・
ねむねむ博士に連絡をして
たすけをたのもうとおもっても、電話もないし・・・
ほるほる君は一生懸命かんがえた。



あっ、そうだ手紙をかこう！
（でも、郵便屋さんはいないのに
ほるほる君はどうするのだろう・・・）

１．木に字をきざんで埋める
２．土器に字をきざんで埋める
３．地面にかいておく

これが、今回の問題です。

連載2回　みんなのちからで

地面の下の宝を守ろう

遺跡はいったいどこにある

◎遺跡のあるところを知るのには、ふたつの方法があるんだ。

ひとつは　本や地図でしらべる。

遺跡のある場所は、むかしから研究されていて、地図や本にまとめられているんだ。

たとえば、倉敷市では「倉敷市文化財分布図」という地図がつくられていて、遺跡の場所に印がつけられている。これは、考古学の先生たちが、市内をくまなく歩いて遺跡をさがした成果だ。

この地図は、埋蔵文化財センターにあるけど、数があまりないから、みんなにはあげられない。だけど、見たい人はうけつけの人にたのんでみせてもらって、必要なところのコピーをとってもらおう。（一度にたくさんのコピーはだめだよ）

また、いろんな遺跡のガイド・ブックが出ているので、そんな本を図書館でさがしてみよう。「遺跡を見に行きたいので、岡山県の遺跡の本をおしえてください。」ってきけば、係の人が教えてくれるはずだ。

本や地図を手に入れたら、地図をみながらその場所へいってみよう。

地面をしっかり見てあるけば、土器のかけらがひろえるかもしれない。

ふたつは　あるいてさがす。

見落とされて地図にのってない遺跡もあるかもしれない。

そんな知られていない遺跡を、自分でみつけてみよう。山や野原をあるき、地面をしっかり見て、土器のかけらや石器、古墳の入口をさがしてみるんだ。

地図にのっていない遺跡だったら、大発見だ。新しい遺跡だとわかったら、大人の人に言って、埋蔵文化財センターに知らせよう。遺跡の場所がわかれば、それをもとにして、その遺跡をまもることができるからだ。

◎では、実際に遺跡を見にいく前に、みっつの約束をしてください。

1．ひとの土地に勝手にはいらない。

そばにいる人に、遺跡を見にきたことをきちんと話してから、見学しよう。

2．畑や田んぼの作物をあらさない。

これも当然の礼儀だ。絶対農作物をふんだりしないようにしよう。

3．遺跡の地面を掘りかえさない。

遺跡をまもる勉強をしにいくんだから、自分が遺跡をこわしたらだめだ。

（じゃあ次回は、遺跡の正しい見学のしかたについて、もう少しくわしく話そう）

考古学入門講座のおしらせ

埋蔵文化財センターでは、この11月に「考古学入門講座」をおこないます。

考古学というと、字を見ただけでむつかしそうでちょっととっつきにくいのではないでしょうか。また、どうやって勉強したらいいのだろう？　新聞に出ていたむつかしい用語の意味はなにで調べたらいいのだろう？　そういった疑問をおもちの人もたくさんいらっしゃるでしょう。

ですから、この講座では一般の方を対象に、むつかしい考古学の言葉をなるべくつかわず、考古学についてまったく予備知識がなくても考古学の初歩を理解していただけるようなお話をさせていただこうと思っています。

考古学の世界にふれてみたいみなさん、どうかどしどし参加してください。

第1回　11月11日（金）　13：30～15：00　　会場　ライフパーク倉敷
「考古学の考え方」

第2回　11月18日（金）　13：30～15：00　　会場　倉敷埋蔵文化財センター
「遺物の見方」

第3回　11月25日（金）　13：30～　　会場　遺跡見学
「遺跡の見方」

対　象　一般（ただし3回とも参加可能の方に限ります。）

定　員　30人

参加料　1人　600円

申込み　10月から受付開始

問い合わせ　倉敷埋蔵文化財センター　☎ 086-454-0600

あとがき・あがき・あが・ガ・ガ・ガ・・・がぁ！

やっと出ました、今年の第2号。

9月中頃刊行の予定だったのに、イベントが続いたため、また遅れてしまいました。

（うーん、つらい）

今回は、「おしえて！おしえて！」の特集ということで、連載記事がいくつかお休みです。ああ、「むかしものがたり」ものせたかったし、年表ものせたかった・・・。次回は全部のせます（のせたいなぁ）。がんばります。　では、では。　待て！次号！

倉敷埋蔵文化財センター情報誌
HORU-HORU
ほるほる
VOL. 2

号外！
ガラス玉きらきら号

編集・発行 倉敷埋蔵文化財センター
発行　1995年2月28日

倉敷埋蔵文化財センター　〒712　倉敷市福田町古新田 940　Tel 086-454-0600 Fax 086-454-0305

みんな　きいて　きいて！　おしらせだぴょ～ん

ほるほる君からのお知らせ！

埋蔵文化財センターでは、今年も展示・講演会・コンサートをやります。

今回の展示の中心は、**ガラス**　だよ！

窓ガラス・ガラスの食器やコップみんなのまわりには、いっぱいいっぱいガラスでできたものがあるよね。

いまから2000年ぐらいむかし（弥生時代）のひとびともガラスを作って使っていたんだ。このころガラスは、とてもめずらしく、だいじなものだったから、身につけるかざり（今の宝石みたい）に使われていたんだ。たとえば、ちっちゃな玉をいっぱい作って、長くつなげてピカピカの首飾りにしてたんだよ。

いろんな色のピカピカひかる小さな宝物。みんなの大きな目で、よーく見てね！

展示のほかにも、ガラスについて先生のおはなしや、ガラスで作ったふえを使ったコンサートもするんだよ。みんなもほるほる君といっしょに聞きにいこうね！

くわしいことは、つぎのページまでひ・み・つ！

おしらせ、おしらせ！

企画展

「玻璃*古代吉備と世界のガラス」

展示では、岡山県内の発掘調査でみつかった、ガラスで作られた玉などをたくさん展示します。

緑や青、黒に金色。いろんな玉があるぞ。

☆期　間　　平成７年４月18日（火）～６月11日（日）
☆会　場　　埋蔵文化財センター　展示室
☆入場無料

＊玻璃（はり）は、むかしの言葉でガラスという意味です。

展示の期間中には、いろいろな関連行事もあります。

■関連行事Aコース　講演会とコンサート

講演会「ガラスの世界」

ガラスの原料・ガラスの作りかた・現代のガラスなど、ガラスの歴史についてお話していただきます。

★日　時　　平成7年4月22日（土）午後1時30分～午後3時
★会　場　　ライフパーク倉敷　大ホール
★講　師　　由水常雄　　東京ガラス工芸研究所　所長
★入場無料　ただし、整理券が必要です。

コンサート「玻璃の音・土の音」

ガラスで作った笛と土笛を使ったコンサート。いったいどんな音がするのでしょうか。

★日　時　　平成7年4月22日（土）午後3時30分～午後4時30分
★会　場　　ライフパーク倉敷　大ホール
★演　奏　　田村　洋　　作曲家
★入場無料　ただし、整理券が必要です。

■関連行事Bコース

講座「古代ガラスの博物誌」

岡山の遺跡から出土したガラスのくびかざりなど、いろいろな玉について研究し、実際に発掘調査も行っている先生にお話いただきます。

そのあと、ガラスを作っている先生がガラス作りのお話をしてから、みんなの前でガラスを作ってくださいます。

★日　時　　平成7年4月23日（日）午後1時30分～午後4時30分
★会　場　　埋蔵文化財センター　遺物整理室
★講　師　　松島　巌　　ガラス工芸作家
　　高橋進一　　総社市教育委員会
★受講費　　200円（申込みが必要です）

◎　関連行事の御案内　◎

また、同じ時期に市立美術館と市立自然史博物館でもガラスの展示をおこなっています。ぜひ、そちらも見にいってください。

「世界現代ガラス展」

世界19カ国、95作家の現代のガラス作品を展示します。

☆期　間　　平成７年４月１日（土）～５月７日（日）
☆会　場　　倉敷市立美術館
☆入場料　　有料
☆問い合わせ　℡０８６－４２５－６０３４（倉敷市立美術館）

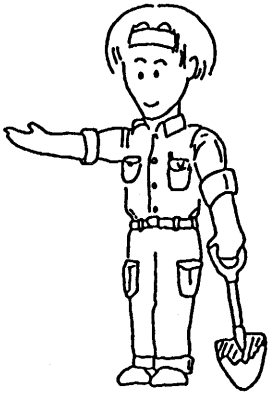
特別陳列「自然の中のガラス」

ガラスの原料になる、身近な天然資源を紹介します。

☆期　間　　平成７年４月18日（火）～５月28日（日）
☆会　場　　倉敷市立自然史博物館
☆入場料　　無料
☆問い合わせ　℡０８６－４２５－６０３７（倉敷市立自然史博物館）

おまけ

ほるほる「このごろ『ほるほる』がでませんね、ねむねむ博士。」
ねむねむ「うっ、それは・・・」
ほるほる「でも、企画展の用意でいそがしかったし、また企画展でみんなにも会えるから。いいですよね。」
ねむねむ「いいや、それはあんまりいいわけにはならんぞ。」
ほるほる「じゃ、次の号はいつ出るんですか？」
ねむねむ「いや、あの、その・・・　ぐー、ぐー」
ねむねむ博士はねたふりをしてしまいました。
と、いうわけで次号はいつ出るのか？
それは、ねむねむ博士にもわからないのであった。
（でもいずれ出るからね）



倉敷埋蔵文化財センター年報2
―1994年度―

平成7年12月31日　印刷発行

編集・発行　倉敷埋蔵文化財センター
〒712　岡山県倉敷市福田町古新田940番地
☎086－454－0600

印　　刷　(有) カジウラ印刷所